前號發賣禁止

無産階級戰鬪雜誌

第四年 ◆ 三月 ◆ 第三號

一部十錢

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可
第四年第三號 大正十五年三月一日發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

目次

◇利用政策と共産黨……卷頭言
◇電光影裡斬春風……同人時評
◇木ノ本町鬪爭事件眞相……布施辰治
◇理論上より考察したる アンチ・ミリタリズム……高梨哲夫
紫電一閃……

全線飛報

近時雜感……
福田狂二氏と私……岡陽之助
共産主義と宗教……松山政雄
◇農村運動の諸問題……山川亮
◇山陰農民奮戰史……佐倉平八郎
◇社會講談 其夜の新徴組……高田浪人
◇吾等の歴史……早野三郎
進め社だより……
◇眞綿で首の組合法案……大橋虎雄
須く陰險たれ……
◇社會主義講話……石川準十郎
春閑啓蟄……

社告

進め二月號は又もや禁止の命を受けた。顧みるに吾等が「進め」を提げて敵の牙城に向つて宣戰して以來、正に四週年になる。其間、幾度か傷き倒れたるも、其度毎に勇氣愈々倍して、戰ひ益々猛烈を加へた。

同志諸君よ、意を安んじて可なりだ。吾等は今や滿身瘡痍を受け、今又新たに一刄を受くるも、決して素志を曲ぐるものではない。階級陣の聖戰の爲めには、吾等は喜んで受難の鋒刀をも受けん。未來は吾等無産階級の爲めに輝くものなる事を、吾等は深く信ずるからである。

篤學石川準十郎、腰越に在つて益々進め社の爲めに、椽大の筆を振ひ、代つて岡陽之助編輯部に入りて他同人を助く。其他別項の如き諸鬪士に因る結束は益々固くなるばかりだ。

請ふ次號以下の光彩陸離たる吾「進め」の健闘を期待されんことを。

マルクス肖像無代頒布

コロタイプ寫眞版 丈一尺五寸巾九寸

マルクスは科學的社會主義の鼻祖にして、無産階級永遠の恩人である。吾社は最近獨逸より取寄せ、複寫して諸者に配布することゝした。三、四、五月中に一ケ年分前納せる讀者に對して無代頒布することにした。至急申込まれたし

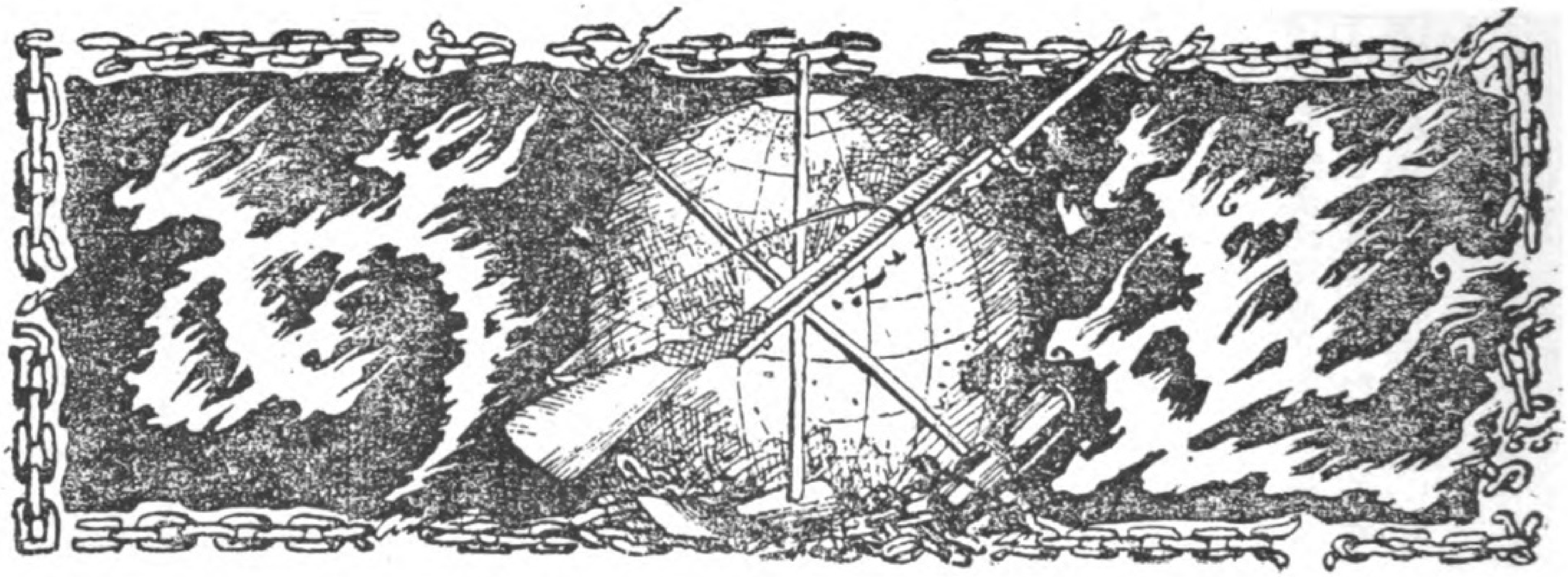
全土に支局を募る

本誌發行部數十萬、無産階級雜誌として古今未曾有の事に屬す。

然り、吾等はこれを以て滿足するものにあらず。更らに一人の讀者が一ケの支局を作らんことを希望す。十萬の讀者皆是支局となるの時は、「進め」は一千萬部を超ゆるに到るべし。此秋則ち吾無産階級勝利の日なる事を記せよ。

手續頗る簡易、支局係に即時申込まれよ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



大正十五年三月　戰鬪・進め雜誌　第四年第三號

利用政策と共産黨

『利用』といふ言葉がある。日本共産黨の信條であるから、いづれ露西亞戰術の虎の卷なのであらう。利用政策をレーニニズムの眞骨頭とし、本店がそれで成功したとあつては出店たる者亦この傳で行らうとするに何の不思議はないのである。が、一體、何事によらず他を利用する位い都合のいゝものはないものだ。出來るものなら他人の搗いた餅を懷手をして食はうといふは豈ひとり共産黨のみの料見ではないであらう。

けれども、猿には人間を利用し得まい。利用といふ事が假りにもヒト樣のものを自分の爲めに使ふことである限り、何かで被利用者の滿足を買ひ相手の服從を捕捉し得るだけの優秀な力を有つ事が利用者の第一條件でなければならぬ。ロハで椽の下の蛛蜘の巣掃除に利用されようといふバカは今時、只の一人だつてゐやしない。

共産黨は他の團體や運動の利用に浮身をやつして來た。食ひ込み、潜り込み、黑幕、乘つ取等皆此の利用策より出でたるものだ。だが、慘めなことにはそれがからきり物になつて居らぬ。食ひ込みには成功しても、さて是からといふ處に來ると先代萩の鼠もどきの醜態を演ずる。せいぜい腕のいゝ所で先づ組合の分裂が止まりである。最近、例の政研乘つ取りは樂屋總出だけはあつて幾分成功といはれぬでないが、その爲めにあれまで同志の反感輕蔑を買つたのでは利用が利用になるまい。況んや今度、獨立勞働協會が出來て折角乘つ取つた政研の將來甚だ陰が薄く、四方八方から共産黨に御注意の豫防線を張られてしまつた等、正に露西亞に對して進退伺ひものではないか。

模倣が惡いといふのではないが、器量がなくてはどだい話にも何にもなつた者ではない。露西亞の訓電も結構で利用政策もやる者に依つては隨分痛快だけれど、お手前一體そんな器量かどうか。三度に一度は、自分の力の程に愛相を盡かしてみても革命家のコケンに關るわけでもあるまい。若し、いつまでもいゝ氣になつて、右傾だ反動だ日和見だと、そんな時代がかつた新聞言葉を唯一の賴みに憎まれ口を叩いていると、佛の顏も三度といふこともある、『局外』の言ひ草ぢやないが、しまいには社會運動の癩病扱ひにされるが落ちであらう。（陽）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

電光影裡斬春風（同人評語）

汝笛吹けど躍らず

――日本共産黨系の孤立――

去る一月十三日大阪に開かれたる、無産政黨準備協議會の申合せに依る、第二回の協議會は二月十三日午後三時から東京大崎五反田の玉姫クラブに開かれ之れに參加した團體は、總同盟農民組合、自治會、總聯合、官業、製陶、司厨の七團體で、その最初の申合せに「共産黨系と目さるゝ者の入黨を拒絶すること」が決議された。これに依つて去る一月以來、危ぶまれてゐた第二回協議會の暗雲も、開會劈頭に於て一掃され、共産系黨の排擊に努力して來た總同盟側も、來る三月に大阪で開催される筈の無産政黨創立準備委員會には、その態度を明かにして參加するであらう事が、大體に於て斷言し得られるやうになつた。

思ふに我國の社會運動は、今日では明かに二大潮流に分割されてゐる。一は共産黨系の所謂ロシア直譯社會主義運動――即ち利用、割込、攪亂の陰謀的社會運動であり、他は非共産黨系――即ち日本大衆の現實に即して、マルキシズムを發展せしめやうとする運動である。斯く明かに相反する二箇の潮流に、我國の社會運動が相別れてゐる以上は、之等のものを折つて一丸とした單一無産政黨の組織を夢みるが如きは、單に直譯的社會運動の大義名分に煩はされたる迷蒙であつて、我國の現實を直視する者にあつては、單一無産政黨の唱道には、その裏面に日本共産黨の陰謀策動のある事を指摘するに難くはないであらう。

來る三月三、四の兩日、大阪に於て開かるゝ筈の準備委員會に於ては、今回の決議誓約に依つて、共産黨系の評議會各組合をして、一歩も指を染めしめないであらうとは思はれるけれど、共産黨特有の魔手は如何なる方面からして、如何なる方策に依つて、今回の協議會に出席した各組合間の離間策が行はれるか知れない。この事に關しては、尚吾等は絶えざる警戒を彼等の上に加へなければならぬ。

共産黨、非共産黨の爭ひをして不徹底に終はらしめる勿れ。爭ひを徹底せしめる事は、軈て一切の正邪を解決する唯一の道である。而して日本共産黨の諸君が、ロシアの出店の店員として、其の得意の陰謀惡辣を我國の同志間に施した事は、遂に今日の如き信望の失墜を來した所以である。自ら天に唾したものは之れ日本共産黨の諸君である。而かも尚其の非を覺らず、自己の慾望の爲めに、我國無産階級の上に君臨せんと夢みてゐるもの、之れ日本共産黨の諸君である。

我國の無産階級は如何に寬宏なりとは雖も、誰か斯の如き共産主義の假面を冠れる封建主義者と手を携へて、單一無産政黨を夢みる者あらんや。汝、如何に巧みに笛吹く共、覺めたる民衆はその音に欺かれ躍る者ぞ。

獨立勞働協會生る

獨立勞働協會が創立された。創立者は安部磯雄、高橋龜吉、島中雄三、賀川豐彥といふ顏振れである。その顏振れによつても大抵知れる樣に所謂右傾團體である。規約に『調査研究、敎育組織、並に經濟施設を行ふを以つて目的とす。』とある如く無論、政黨的な實行的團體ではない。しかし、無産黨樹立を目標として無産階級的政治敎育のためにこの一團は可成りの期待を荷つて働くであらう。經濟的施設とは、社會事業を政府の手

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

を待たずにどしどし敢行してゆくの決意である。即ち消費者としての無産階級のために其の要求を片つぱしから充足せしめて行かうといふにある。消費組合勞働學校、無料病院、無料宿泊の設置開展の仕事の如き、無産者今日の急を救ふべき事業こそこの團體の是非着手せねばならぬものだと思ふ。

政治研究會が大した事もやらずに而も共産黨あたりの分裂乘つ取りの奥の手に乘つかつて政黨ともつかず研究團體ともつかぬ化物(睨みの利かぬ――)になり下つた所以の第一は、分を知らずして、つまらぬ實行團體なみの空元氣を出したからだ。獨立勞働協會はこの轍を踏んではならない。右傾といはれ妥協と罵られたつてそれが何だ。日本の現狀は左傾よりも右傾がより革命的なのではないか。左傾が革命的だつたのは、明日に革命の實現を予想した當時の錯覺であつたのだ。もちろん左翼が惡いのではない。右翼的運動の價値に盲目な事が惡いのだ。戰術といふ事が我々の考慮に入るは、言葉の强さではなく奏功の如何が問題だからだ。勞働協會よ。惡口に動かされるな。惡口の後に控へてゐるものは乘取策であることを忘れてはならぬ。

白中の馬の足

市長永田を創立委員長とする建國聯盟なるものは、その組織の既に時代錯誤である點に於て又その行列の生氣なき點に於て且又創立に先き立つて内輪喧嘩に花が咲いた點に於て、誠に沒落資本主義の提灯持行列にフサハシイものであつた。只そのポスター宣傳に於てのみは可成の功を納めた。即ち行列參加人三萬と云ふ數字に多少のカケネはあつたとしても、先ず持つて成功と云ひ得べきであらうが、考へて見れば、底脳揃の古參軍人及びそれに附屬するザイゴ軍人、不良學生、バー荒、を中堅とし、上は市長より下は天理教徒から神敎徒、團扇太鼓の徒に至るまでを參集したと云ふまでの話であつて、斯の如き徒輩は所謂恩給附きか然らずば、人の懷を當ての坊主御賽錢取りか、非ずば親のスネカヂリの徒であつて、畢竟當底一人歩きの出來ぬ誤迷中である。こんな誤迷士や誤連中に白中、馬の足を務めてもらはねばならぬ日本であるが故に、夜の十時過ぎに銀座のスートムのある日本であるのだ。さ、それに御氣の附いてゐる、學者、官吏、軍人、教育者のゐない日本である。

そしてこれ等無智有識者こそが現在日本を双肩に背つてゐるとウヌボレてゐるのである。『我等のものである未來』の爲めに打破るべきものは智識と云ふ無知である。

文藝聯盟の前途
日本プロレタリア

日本プロレタリア文藝聯盟は成立した。だが然しその成立の最初から、思想系統の如何を問はず、單に反資本主義的と云ふ漠然たる旗の下に、種々樣々な文士を糾合しやうとした爲めに果せる哉、評議會所屬の出版勞働組合の爭議に寄附金募集が、緊急動議として提出されたのを口火に、アナキスト系の思想家は一齊に立つて、コンミユニスト系に挑戰した。其の爲めに當日の幹事は日本プロレタリア文藝聯盟は非行動的な團體であると釋明して漸やく收まつた。

吾人が考ふる所に依れば、プロレタリア文藝なる名稱の意味する所のものは、社會運動上に於ける一分野としての文藝戰乃至は文化戰を意味してゐる。現にプロ文藝聯盟の綱領の一節に於ても、明かに文化戰野に於てブルジョア文化並にその文化の支持者と鬪爭する事が記されてゐる。それにも拘らず、プロ文藝聯盟と社會運動とを切離して社會運動としてのプロ文藝を否定して、何處にプロ文藝存在の意義を有するのか。

吾人は好意を以て進言する。改めてプロ文藝聯盟はその創立に出直す可きが當然である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

木ノ本町闘爭事件の眞相

布施辰治

（一）

大正十五年一月四、五兩日、東京大新聞の朝夕刊に内鮮人の大爭鬪と題する記事が掲載せられた。

（二）

其の内容は三重縣南牟婁郡木本町常設館にて、活動寫眞觀覽中の鮮人土工に面會を求め來れる鮮人土工と木戸番との折衝中其の場に居合せたる顏役某が、突然鮮人土工を毆打して七ヶ所に負傷せしめたので、活動寫眞觀覽中なりし鮮人土工等の憤慨甚だしく、一時は大喧騷を極めたるも、警察官の犯人檢擧に依りて、大事に至らざりしが、翌二日夕刻木本町路上に前日の鮮人土工と、顏役とが出會するや忽ち喧嘩を始め、内鮮人多數が各自之に聲援參加したので、意外の大爭鬪と爲り、鮮人の兇暴には警察官も容易に近寄れざる爲め、木本町民は、在郷軍人、青年自警團を作りて鮮人を逮捕し、警察署に連行中、一般町民の憎惡甚だしく、[illegible]、[illegible]した[illegible]、鮮人側には死者二名、内鮮人共重輕傷者多數といふ事であつた。

（三）

此の記事を讀んだ私は、活動寫眞觀覽中の同僚に面會を求めた鮮人土工と、木戸番との間に言語不通より生じた折衝上の行き違ひに原因せる顏役の暴行事件も、翌日の出會頭に蒸し返された内鮮人の衝突が意外の大爭鬪となりたる事も、敢へて所謂内鮮人なるが故の出來事として特に之を重大視しなければならないとは思はなかつた。何故なら、同じ鮮人の間でも、又同じ日本人の間でも言葉の意味の取違ひや、特種な芝居小屋の慣行に不通な行違ひから、意外の大衝突を起したり、其の納り切らない喧嘩の餘憤が、飛んでも無い大爭鬪を蒸し返した事件はいくらもあるからである。

[illegible]警察[illegible]や[illegible]青年[illegible]（[illegible]といふより[illegible]の[illegible]に[illegible]一般町民が[illegible]して[illegible]、[illegible]に鮮人[illegible]の[illegible]であつて[illegible]人道[illegible]の[illegible]行爲であつて[illegible]民族の[illegible]民族に對する[illegible]が[illegible]々の[illegible]に[illegible]事件[illegible]ではあるまいか[illegible]へし[illegible]でもる[illegible]考へる。

（四）

其處で私は一月七日偶々來訪せられた黒友會の張祥重氏に同事件に就て語り、次いで同事件眞相調査の要あらば、辯護士として之に協力すべき事を提議した。

すると張氏は在日鮮人思想團體、勞働團體の間にも既に同事件眞相調査の爲、視察員派遣の議があるのであるが、辯護士團

近時雜感

昨年は治安維持法、今年は勞働組合法、爭議調停法と、暴法は暴法に次いで無產階級の解放線上に血迷ひ狂ふ。

狂ふ者の本態は無論、資本家と及びその與黨とである。

彼等が斯の如き「法」を必要とすると云ふ事は、これに依つて漸くその階級としての社會的存在の否定的立場から脱れ、現在「地位の確保」即ち、これにより永く勞働大衆の犧牲の上に安眠出來得るものであると信じた結果からである。

知らず彼等の迷ひは、彼等の斯の如き「暴法」こそが、暴力革命にとつて最も必要、缺くべからざる要因の全部であることを。

×　　×

三浦觀樹と加藤高明とが同時に黄泉行とシャレた。續いて大木エン吉もその後を追つた。これ等の道行に當面して喜んだものは葬式屋とオ寺ばかりではあるまい。即ち、三浦の死は大臣共にとつて、御百度石が一ツ失はれた事を意味し、加藤の死はその反對黨大小陣笠共の腦裡に、首相の死！内閣解散！立候補！我が黨内閣の成立！と走馬燈に火を點ぜしめ、暫くの間ではあつたにもせよ、氣持の好い勝手な夢を見られた理である。

最後に加藤と云ふ男も運の好い男だつたサ、入つては金權三菱のムコ、出てはトキメク軍閥の首相、右手に骨拔普選、左手に治安維持法、背中に勞働組合撲滅法案の使ひはけは、彼もあまりモーシ■

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の協力を得る事が出來たら幸だとの事で、私は自由法曹團に、張氏は在日鮮人思想、勞働團體に同事件眞相調査視察員の派遣を計る事とした。

越えて十一日、自由法曹團幹事山崎氏に其の旨を申出て、其の會合を求め、同十八日正午東京辯護士會館の自由法曹團の會合には、黑友會の調査視察員と決定した張祥重、金正根、兩氏も調査打合せの爲に出席し、滿場一致、自由法曹團からは、私が派遣せらるゝ事に決定して張、金兩氏との間に種々調査方針及出張時刻の打ち合せを了した。

愈々事件眞相調査視察員として、派遣せらるゝ事になつた私は一月廿三日大阪控訴院に開廷せらるゝギロチン團事件辯護の爲めの下阪を利用して、出來る丈け、便宜に眞相調査の詳細を期する考で、廿二日午後七時廿分、東京驛發の豫定を通知すると共に、大阪及三重水平社同人の援助を求めた。

其處へ恰も、一月會の辛君等も同事件の眞相調査に行くといふて來たので、廿三日朝大阪に於て會合すべき事を約した。

（五）

廿二日午後七時廿分、出發直前、張、金兩氏に據なき差支が起つて急遽同行不能に陷りしは甚だ遺憾であつたが、私は豫定通り先づ大阪に向つたが、大阪で會合する筈の辛君等と會合する事が出來なかつたので、西成區勞働總同盟本部を訪ひ、辛君等一行は、關係官廳、及び一般の調査を私に託し、同君等は木本町の實地調査の爲め、先づ發したといふ事を確め、單身三重縣に入つた。

そして私が同事件眞相調査の爲に公官廳、團體等を訪問し、更らに廿六日名古屋控訴院檢事長訪問迄に得た結果と、私の所見は其の眞相に近いものだと信ずる。

けれども、同事件は今や豫審中に在りて、其の眞相一切を公表する事を遠慮しなければならない。依つて左に公表しても差支の無い程度の概様を指摘して一般の輿論に愬ふ。

（六）

(1) [illegible]被害[illegible]、木本町と[illegible]村間[illegible]して居た五、六十名であつて、[illegible]工事に[illegible]、總に[illegible]日人土工[illegible]五、六十名居り、鮮人[illegible]の[illegible]別で、日鮮土工の感情[illegible]だ融和せざるものありし[illegible]に拘はらず、[illegible]防にて[illegible]、[illegible]をなさず、[illegible]鮮土工の[illegible]と、[illegible]を[illegible]しめて居たので、[illegible]の[illegible]を[illegible]し[illegible]。

(2) [illegible]事件の[illegible]月二日の[illegible]事も[illegible]が、木本町[illegible]に[illegible]る[illegible]の[illegible]を[illegible]も、[illegible]が日[illegible]ついたのであるが、[illegible]、[illegible]人は之を[illegible]の[illegible]ので、[illegible]の[illegible]る。

(3) [illegible]

ンが好過ぎたので長生はあるまいと思つた――ヨ。は無産階級の喜びこ

× ×

既にモウロクはして居るが、當年の山本權兵衛も亦政界の怪物たるを失はなかつた。が一と度びシーメンス事件で、ゴンベリそくない、再たび地震にブツ飛されて、それで終りであつた。

そこにゆくと珍品の渦卷の中に寢ころび、黨員をアゴで使ひながらシツポも出さずにウマク一生をハラケ通した原敬は誰がなんと云つても彼のラツワンもあつたではあらうが、要するに好景氣に乘り上げた幸運兒である、と云ふの外ない。

ところが死んだ加藤高明は野黨に在る時既に珍品五個で少々味噌を付けてコメツテしまつたかの如く見うけられたが、トウトウ内閣をカトツタ程の強かものに成りをふせてしまつた。が恐らく在野黨としての珍品のナショクは今度の田中の三百個だらうと噂されてゐる。それも三百取つたら五十だやらうの口頭證文を泡に吹いてギイナてしまつた所、及びその問題の終末もつかぬ今日、貴族院議員にまで成り上つて、目下盛んに男振りを上げてゐる、その田中の度胸振には、流石軍人上りの戰術家だワイとウナヅケて感服の外ない。要するに刺身にはツマが要る、薔薇には藥味が要る、政黨には金が要る。政黨に金の要るのは體裁からではない、黨員統率の藥味である、改めて黨員の鼻口ネンマクのマスイ藥である。

その取り方ヌリ方の爲めに政治家は男が上り、男が下る。ここまでもサギ、ドロボウが資本主義組織内での成功の秘訣

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

左に日鮮人にして検挙せられた者の氏名を挙げて置く。

森永光雄　尹眞鎭
尹鉤享　高橋要次郎
金德龍　金又鳳
杉浦新吉　金明九
金道與　黄鳳益
金仁度　朴德守
金平烈　桃田樽市
永谷與三郎　大川實
三宅國一　谷作松
大平忠次郎　前川實之助
小西忠四郎　李達巡
兪相範　徐守省
林朴一　金永守
李是介　孫萬植
岡武右衛門　猪平爲藏
幸田喜代一　前田米藏
西村喜三郎　平政藏
中村與惣松　柳本奈良一
糸川市太郎　佐々木常太郎
橋本清三郎　以上

民族主義者の苦悩

△今は反動萬歳の世の中である然し露骨な帝國主義の宣傳は、如何に反動の世の中でも、最早、時代意識がそれを許さぬ程に、進歩し民衆化して來てゐる。

△侵略帝國主義の禍心を深く秘めた、下民族主義者の懊悩は此處に生れる。彼等は昔カイゼル・ウキルヘルムが黄禍を夢想して、自らその妄想に怯えた如く、ロシアを目して赤色帝國主義國家と呼び、西歐の東洋侵略のユトピアを描いて、有色人種聯盟を叫ぶ。然しだ、その有色人種聯盟の尻尾の方に、支那管理策や、印度懐柔策がブラ下がつてゐるのはどうしたものだ。

△今は反動萬歳の世の中である民族主義者もデモクラチックな假面を脱ぎ棄て、勇敢にイムペリアリストになつたら。（魯）

である、要は只如何にしてそれを爲すべきかである。嗚呼今の世の中、金が仇は佐渡、[illegible]り土方ばかりではない。

×　×

高橋是清は政界をインタイした。彼が政界の氣コレキヨシとせず、斷然走を洗つたのであるか、どうか、それ程彼にダルマ味があつての結果かどうかは知らないが、彼が曾て政界の人氣受けの爲めに爵位返上の擧に出たのに對し、彼の大小陣笠連は一様に逸率のこの行爲に對して極度の感激と誇の涙を流さぬ者は一人も居なかつた。程それ程、無智であつた。

ところがこの同じ大小陣笠連は、今日にあつて高橋とガン首をスゲ變へた田中の貴族院入りに再び、高橋の爵位返上の時と同じ程度に、感激と誇のムシカヘシに陶醉しつゝあの無節無能さである。斯の如き幽靈をもつて眞充せる、ヘキダメ議會の決議事項に依つて、活殺の權を左右せしめられつゝある、七千萬日本人は又不幸なる哉と云ふべきである。

×　×

今の世の中に於て、學校に入つて學問をすると云ふ事は、車夫が車を營業しつゝあるが如きものである。

車、一と度びなれば即ち車夫は客を待ち學若し成らば彼等は雇主を待つ、車夫も學者も共に客至らば直に妻子を外に千里萬里の外にも使ひせねばならないのである。

賣らん哉勞力、買はん哉勞力。賣らん哉學問、買はん哉學問、賣らん哉暴力、買はん哉暴力。然かも賣ることの爭ひ激甚を極めつゝある今日、賣れる者は街學ひ

理論上より考察したる

アンチ・ミリタリズム

高梨哲夫

資本家が死を恐れる如く勞働者も死を恐怖するのである。必然的(運命的)の死以外吾々人間は常に死を恐怖するのだ。死を恐れなかつたなら人間生活の上に階級の意識、對人的爭鬪などは決して發起するものではない。此に依つて人間の活動力が停止する如く、凡ての人間苦惱は死に依つて解決さるゝものである、故に死そのものを恐れなかつたならば凡てはホライゾンにあるべきだ。處が生きやう生きやうとする意慾力あるから爭鬪は發生し、資本家も出來れば無產階級も現はれるのである。誰だつて金が欲しい、有福な生活がして見たい、と思はぬものはないのだ。處が資本主義經濟組織の社會にあつては、不合理極まる階級が存在し、爲めに無產者は常に虐げられて行かねばならぬのだ。物質慾に於てすら欠陷を抱くプロレタリア階級に對し、[illegible]（[illegible]に死[illegible]、今日プロレタリア階級中にアンチ、ミリタリズムの旺歌されてゐることは研究すべき問題である。[illegible]

あゝ爭鬪は恐るべきだ、生の爭鬪が恐ろしい如く、外爭も恐るべきだ。誰だつて死にたくないのだ、それを義務に拘束されて死なねばならぬのは何たる現象であらうか。[illegible]、それに引替へブルジョアは益々成金となり、經濟上の安定を得、キャピタリズムをいやが上にも發揮し横暴至言な行爲を敢てなし得るのだ。[illegible]のだ。

自分は××の戰爭がどんなであつたかは知らない。が自分は今はなき祖母から如何に戰爭の

[illegible]である。見よ、各種大學、專門、商業、の卒業者十萬の中賣れた者僅かに一割と云ふ資本主義の目當なしの大量生產振りを。

×　×

株式取引所は資本主義制度の縮圖である。人間の各々は、その株の一つ一つであるに過ぎない。それを賣買することは資本家のもつ特權である。

從つてその個人が如何に有才有智の士であるとするも買主の見つからぬ所、又は資本家の不必要とする所、株式取引所に於けるボロ會社の株と等しく相場は無である。

×　×

三越や、白木や、帝劇や、高貴なる營養研究所や、幾多の誤樂所や。(忍)

共產主義と宗教

松山政雄

マルクスは『宗教とは人民の阿片である』と喝破した。然り宗教とは我々プロレタリアを無智と陶醉に陷入れ、精神の淨化てふ美名の下に凡ゆる搾取と、支配とを擅にせんとする恐るべき痲醉劑である。

宗教の始まつて以來、人類の宗教は社會の推移と共に種々に變遷した。古代に於ける原始人類は太陽、火等の自然物を崇拜し、中世の人類は英雄を崇拜し、現代では支配者及び神樣化されたる人物の崇拜をなす等、時代の變遷に伴つて宗教も亦變化してゐる。

恐ろしきかを幾度聞かされたか知れない。自分の父も、その弟も、外に叔父二名が戰地へ出征してゐた。母と祖母は朝夕神佛に出征者の幸福を祈願し、恐怖のうちにも小作百姓をして自分を養つてゐたと云ふのだ。然るに叔父の一人はヒタチ丸にて出征の途上敵艦のため日本海の藻クズと消へ、父の弟と一人の叔父は戰死し、父は負傷して野戰病院に投込まれてしまつたのである、而して自分の父が戰後に得たものは僅かの一時金と勳位と借財であつた。一時金をプラス、マイナスしたものは只勳位のみであつた。祖母はいつも戰爭の恐ろしいことを自分に話してくれた。父は戰爭の面白いことを話してくれた。が内心では泣てゐたことを今でも思つてゐる。

水野正次氏に依つてアンチ、ミリタリズムが唱へられてゐる。自分は平凡な人間である以上、死を恐れる、就中爭鬪に依る死を、その意味に於てアンチ、ミリタリズムが決して突飛な主義でないことゝ思ふ。

自分は肺患者だつた爲め兵營の門を叩くことは出來なかつた故にミリタリズムに對する論議の資格も價値もない、故に只プロレタリアとして爭鬪の及ぼす影響を思ふのみだ、しかし乍らアンチ、ミリタリズムが實驗者のみに依つて生れるものでもない環境に依つて生れるものであることを一言する。兵庫縣で發行する或る文藝雜誌に伊澤秋海氏が戰爭と題する詩を書いてゐる、この詩に依つて水野氏の所謂アンチ、ミリタリズムがより以上意識さるゝことゝ思ふ。

[illegible]平和を[illegible]行爲である[illegible]平和であるべき地に、平和でなきことはアン、レーカブルであらねばならない、ヘーヤブレー、アンド、デモクラシーこそ理想に近き社會である、アンチ、ミ[illegible]

よせ〳〵餘り〇〇てるじやないか
軍人だ〇からとて何だい軍國主義が
今の世に何を褒ばけて
[illegible]
た[illegible]の[illegible]い〇〇だと言ふのか
い……
[illegible]者論のやうな〇〇の息子で
〇んだつて[illegible]へない奴はいゝさ
だが乞食のやうな貧乏人は………
そんな社會の　　は[illegible]ない[illegible]
[illegible]へ[illegible]の[illegible]な………
ある[illegible]に[illegible]の〇〇〇〇〇〇
金[illegible]も買つた官吏は
[illegible]にまで[illegible]立てくれ
人々からは[illegible]のやうに[illegible]
だが[illegible]の今[illegible]はどうだい
社會から〇〇扱ひにされ
昔の〇●にすご〳〵と[illegible]てゐる[illegible]
その[illegible]は[illegible]　〇
あゝみぢめなざまを
[illegible]も知らぬではなからうが———
わ[illegible]は
國[illegible]●●の[illegible]だ……

この伊澤氏の詩は何を吾人に物語るであらうか、あゝ戰爭はしたくないものだ、[illegible]だ。故に戰爭は[illegible]殺人以外は餘りに[illegible]ものではなからう……アナーキストやサンヂカリストがひどしくやかましく[illegible]に向つてゐる[illegible]、サンヂカリストの[illegible]てはならない、[illegible]に[illegible]て[illegible]頭せんとしてゐる[illegible]し[illegible]ゐる[illegible]だ。

（一九二六、一、二三）

宗教の本質は、實在の精神的な在となし、物質界は其の反映であるとなす唯心論を以つて終始し、人類生活上に必須缺くべからざる第一の條件は科學にあらず、物質にあらず之れ精神あるのみとし、人間機能の活動は精神作用を俟つて始めて、其の端を發すると云ふにある。而して物質を以つて第二乃至は第三の條件としてゐる。

即ち宗教家をして云はしむれば、人間の存在は物質の存在にあらずして精神の存在であるとなし、更に極端に云はしむれば人間は食物を攝らずとも精神さへ存在してをれば、斷じて死滅するものにあらずと云ふのである。

勿論科學的共產主義者は斯くの如き、非科學的なる抽象的愚論を毎々齒牙に掛けて批判するの遑を有たない。

又彼等は信仰への道に依つて一切の罪惡、一切の惱みは始めて救はれると云ふ事を最高の信條としてゐる。

然らば罪惡とは何ぞや！　資本主義社會に於ける罪惡は共產主義社會に於いては善であり、共產主義社會に於ける罪惡は、資本主義社會に於いては善である如く、善惡、道德の差別は、其の當時の社會組織、制度に依つて亦自ら其の意義を異にするのである。

故に彼等の口にする罪惡とは資本主義社會に於いての罪惡であり、共產主義社會に於いての善であらねばならぬ。

亦彼等は我れを我れたらしむものは、我ではなく、我以外のものである。我れは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

紫電一閃

◇佐野學と秋水

佐野學といふ人がゐます。この人はもと早稲田大學の先生だと申しますから學問にしても文章にしても衆に優れたエライ方であるに相違ありますまい。そこで多士濟々の共産黨から特に選ばれて週刊「無産者新聞」の主筆に戴かれて居ります。それですから、頂度言つてみれば往年の「平民新聞」に於ける幸徳秋水の地位です。秋水は絢爛にして颯壯たる筆を振つて社説を書き當時の人心を鞭つたものです。ところが、佐野學サンの方ときては、同じく主筆は主筆ですけれども、まるでその論説は蒸し返へした御飯が冷へたようで誰れ一人顧るものもないといふ有樣です。私は折々、佐野學主筆と大書したあの嚴めしい、(けれどどこやら熊の胃の廣告みたいな)「無産者新聞」のビラを櫻田本郷町の停留所などで見ますが、そのたびにかうしたことを思はされるのです。

◇島中雄三氏の聲明書

島中雄三氏は人も知る「政治研究會にとつては」のおッ母さんみたいな大事な人でした。所がいつの間にやら共産黨の足輕や折助どもに食ひ込まれて遂々可愛そうにオン出されて終つたのです。島中さんは無論おこりました。あのよどれ大黒みたいな顔が涙で縞のつくほど口惜し涙に暮れたかも知れません。でとう〳〵聲明書といふものをプリントにして同志に配りました。その聲明書は實に言々肺肝に出ずとでもいふのでせうか、讀む人に一種悲壯の感を與へずにはおきません。またあれを讀んだ者なら誰れだつて島中氏に同情を寄せ共産黨を憎まぬものは人に非ずといつて奮起した人もない限りではありますまい。けれども、世間には島中氏にばかり都合のいゝ慷慨家ばかり居らぬといふことは本當に氏には、お氣の毒です。なぜなら、島中氏から散々原利用されて揚句の果てにスベもない御挨拶を食はされた人だつた滿更居らぬ譯ではないからです。そこでこの人達は、便所の中で氏の聲明書を讀んでせゝら笑つて、お尻を拭いた事でありませう。こうした關係を昔の人は、因果は廻る小車のと申しました。

◇堺氏と狸

堺氏は決して惡い人ではありません。しかし底意地の惡い、妙にイヂ〳〵とからみついてさつぱりしない、いやな性格を有つた人だとは何としても言へると思ひます。福田狂二氏などはどういふものか、堺氏をつかまいて狸々と申すようですけれど狸といふ毛物は堺氏なんぞと違つて、ちよつと禪味を帶びた憎めない可愛いゝ奴ではありますまいか。

◇絶交狀と方轉

共産黨はロシアの手先きですからロシアが盲信されてゐた時代には大した勢でしたがこの節のようにロシアのアラが見えて來るとからネウチがなくなるといふのも仕方がありますまい。何某といふ共産黨員は友人から共産主義者と言はれたために絶交狀を書いたとの事です。盛んな時に執行委員だ大臣だと人もなげな夢を見て得意になつてゐた報ひとはいへこれではあんまり方向轉換がひど過ぎるではないでせうか。

我れとして存在してゐるのではなく、我れ以外のものに依つて、始めて社會に存在し得てゐるのである。故に我等は我以外の存在に對して滿腔の謝意を表し、報恩しなければならないと教へる。

嗚呼！ 之れこそ彼等宗教家の僞りなき搾取手段の眞意である 彼等は民衆の無智に乘じて教化の美名の下に斯く教へ、斯く導き所謂お賽錢の増收を圖らんとするのである。此の甘言に欺瞞された民衆は、資本家に搾取されたる殘餘の膏血の結晶を惜可彼等に提供し、以つて自己滿足に陶醉してゐる。

されば宗教は支配階級にとつて最も有効且つ至上の武器であらねばならぬ。

故に支配階級は宗教を利用し、動ともすれば鬪爭と反抗に赴むかんとする民衆を懐柔し、所謂信仰への道に依つて無智と屈從を強ひ、以つて自己の搾取と支配をして一日も永からしむべく永久奴隷の深淵に陷入れんとしつゝある。

共産主義は近代科學に立脚し、唯物史觀をもつて搾取と欺瞞以外の何物でもない宗教の罪惡を剔抉し、隷屬と屈辱と無智との深淵に陷入れられたる民衆を資本主義倒壞への階級鬪爭へ導びかんとするものである。全人類をして自由と平等の社會を建設せしめんとするものである宗教をして科學の前に戰慄せしめ、其の絶滅を期せんとするものである。

民衆搾取の武器として支配階級の永く利用した宗教は今や科學の前に其の權威を失はんとしつゝある。鬪爭へ！ 鬪爭へ！ 勝利の前には民衆を惑亂すべき何等の邪念もない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

全線飛報

新組織をつくれ

◆

福島縣協議會は何んのために造くられたか、少とも無産階級の各團體によつて組織されてゐる以上政黨樹立のための單なる既成政黨の投票權かきあつめ的のものであつてはならぬのだ、勿論協議會は無産政黨樹立運動の準備機關でありその職能しかないのならばそれまでゞあるが併し縣下の十幾つかの各團體並に其れ等の中で農民團體の大半たる縣協議會がそしてこれ等を組織してゐる各團體諸君が組合自ら政黨樹立にばかり、こびりついてゐて又地方的の特殊性を省りみず、お祭りさはぎにやつて、お調子にのつてゐるやらうでは泰平だといへる。

◆

最近の縣協議會の運動は結黨禁止と共に自然消滅の感がある そして縣の各團體諸君は何んのための政治運動か政治運動肯定か、そして縣下のどの團體も政治運動に走つた、又走らざるを得なかつたであらう。そして結黨禁止の厄にあひ、協議會は中央の運動に一頓座を來たしたやうに亦頓座を來たし、ぐらつきはじめたのだ。併し協議會は自滅したのではない、こんどはます〳〵重大な使命をおびてくるのだ、それは協議會の性質は單に政黨樹立の運動の機關でなくて最を大切な經濟鬪爭の實際的活動のための機關であらねばならぬからだ。

◆

そこで福島縣協議會は別に新たに機關を設け、純然たる無産階級の評議機關であらねばならぬのだ、今日解體同樣となつてゐると云つてよい位協議會は其任務に於ては縣下の無産者團體の聯合體をつくりこれと各自が提携し共通利害の共同戰線をはることそして常に經濟行動！地方的地域的の自治的政治行動をなすと共に一方末組織者の組織運動をなすことが任務である

◆

各團體は足もとに力を注ぐべきだ足元がぐらついてゐては何も出來やしない、政治運動をやる團體はそれでよい、併しどんな場合にも無産階級の實際生活日常生活を無視してはやつてゆけぬのだ、そこで各團體の仕事は自分達の組合擴張と末組織者をさます事と自治體へ進む事が現在としてはよい方法なのだ

（福島勞働小僧）

評議會の惡辣

◆

昨夏俺達は關西勞働組合を作つた。組合員は追々增加して來た所が最近例の評議會が來て橫取しようとして居る。

彼等曰く「關西勞働組合は社會主義者計りだあんな組合にはいるな」と、これ例のスパイ三田村四郎の戰術だ。評議會は一の三田村ある事に依りて推して知るべし。吾等はスパイやゴマのハイの傀的組合が出所の知れぬ運動費を使つて日本の勞働運動を妨害するを憤るものである。評議會の惡辣なるは天下公知の事實にして、最早何ん人も彼等の言は信じない。

◆

試みに見よ！彼の農民勞働黨を禁止せしめた要因は、陰險惡辣なる日本共產黨直系の政治研究會及び評議會が參加してゐた爲ではないか、今や彼等が何れの團體にも相手にされず、全然孤立の悲慘なる狀態に陷入り、四苦八苦の深淵にもがきつゝある。然しながら彼等は豐富なる運動資金があるので、純眞にして熱烈なる同志を買收せんと凡て

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ゆる苦肉策を廻ぐらしてゐる。

全日本の勞働者諸君よ！勞働運動の破壊者評議會の奸計に欺満されるな。金權を以つて勞働運動の支配者たらんと志ざす評議會を葬れ。彼等を無産階級運動戰線より驅逐してこそ、始めて眞の運動が開始されたるのだ。(山口義市)

覺めよ越後の勞働者

◆

越後には僅勉なる美風がある常によい事だ。世界の人間が皆そうであつたならば勞働争議は見る事が出來ないだらう、但しそれは人間が勞働者が牛や馬の代用をして否、牛や馬をもつて自任しておる間だけだ。質朴で僅勉だそれが美風だなんて資本家は云ふてほめるが人間として公平なる立場から見る時は眞に情ない事ではないか、人間が牛や馬と同じに取扱はれて滿足しておるんだ、馬鹿な、何んだい資本家の奴等はそれを美風だなんて云ふんだ。

◆

生意氣じやないか？兎もすると學校の先生まで越後には僅勉の美風があるなんて云ひやがる馬鹿もこれだけ徹底すれば世話はない。昨年新潟市に各工場會社の勞働時間の調査を市で行つた、それはかうだ、用紙を會社や工場に一枚宛配り其處の職工長みたいのに勞働時間を書かせる。それを會社又は工場主に提出する、そしてその紙に會社工場主の印をして市役所に出す。所がどうだ或會社の如きは一日十二時間も働らかしといて（それで賃銀は非常に安い）職工の書いた通りにせずして十二時間を十時間にして殘りの二時間は時間割によつて一日の職工賃銀と別にそれだけ餘計に賃銀を支拂つておる様にして出したそうだ。それは勿論職工に知れない事だ、それを俺が聞いた時は泪が流れた。如何に小さな會社と云へども餘りに非道だ、それでもお役人達は何も知らずに勞働時間十時間以上の所は無い適當だなんて思つておるんだらう知らぬが佛だ。これも昨年の事だが現今の婦人會なんて云ふものはなつてゐない。生き物を憐れめなんて或日ブリキの器物を作り水を入れて町中の要所におき馬などに水をやつたものだ。何某教育長婦人辯護士婦人なんて賣名的の事をやつて喜ぶ奴等ばかり、それよりも何故に勞働を憐まざる。實質的の事を知らない奴等だ。

◆

今日の勞働者は機械に使用されておる、機械以上に勞働させられておるんだ、シャナリクナリと美しく着飾つてゐる奴それ等は皆勞働者の血と泪だ、實質的に進め、馬に水をやるよりも人間を先にせんか、勞働階級の解放運動をせよ、婦人は婦人同志だ紡織工女の解放運動をせよ、馬に一日一杯の水を與へるよりも、何程爲になるか知れない、馬と人間を間違ふてはならぬ。越後勞働者は餘り働らかせられて資本家に對抗する元氣はないか？人間としての自己を意識せよ、一大勞働革命運動を起せ！覺めよ越後の勞働者諸君！

（新潟岩崎潔）

人夫小屋より

◆

空想的概念の羅列に過ぎない全士戰報欄の淋しさを悲しむ。今少しく實際生活に基礎を置く地味な工事生活や工事場の研究を充載して欲しい、敢へてケチ臭い不正や不義をとは云はぬ、たゞ受負業者とは、工場とは、原料とは、重役とは、株主とはの實際問題でよい。

◆

勞働の種類と賃銀の高底、甲の勞働者が食費の外日給四錢であり、この勞働者の賃錢が八十五錢の飯代十六錢であると云ふ事、丙の勞働者の賃銀が貳圓の飯代七十錢であると云ふが如き事實の研究。

小作人生活の内容、日本の如き零細農業では小作人地主の間隔が米露の如し甚だしくはないやうに思はれる。殊に越中礪波地方の如きはそれである。

◆

農家本來の米作以外副業としての養蠶野菜栽培藁工品製造等は漸くすたれ氣味となつて、地主(自主以上)の者すら往々自作(一町歩以内)及小作等と伍して鑛山、交通、電力等の工事場に出稼きに出て日給としての賃銀を得るの策に出するものが多い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

受負業者は昔日の如き稼業人（一生を土工や坑夫に從事する者）を使用する以外に出稼人即百姓人夫を使用するを得策としてゐる、理由は多々あるが、要するに溫順であると云ふ事に的する理由は省略。そして此の種の百姓人夫は主としてエゴエストが多い、思想的には淺く宗敎に順ぐ以外に階級意識は毫末もなく思想の乘ずる處とはなまいと思ふ。教育は小學校、青年團員在鄕軍人會、淨土眞宗の說教演說に依つて受ける感化以外のものはない譯である。（土工飯場の放歌雑音の騒々しき中にて、讀者よ留意して淺薄なる批評をなす事を。

（富山縣、中島安太郎）

この儘で行け

◇

吾が郷土に於ける青年團は一昨以來財政の根本的行詰り及會員の紛爭問題等が重なる原因にてついに○○○青年團は分裂を餘議なくされたのであつた。吾等はかゝる現象を遺憾に思ひ常に青年大集に喰入、青年團の統一と組織の改革を計り完全なる青年團の進展を望まんが爲め吾等は一昨年來鬪爭に鬪爭を續け今日に至つたが、ようやくにして其の功績を認め青年團の統一を見たのであつた。併し青年團の統一はこゝに實現されたが今後如何に團を改進すべきか且又吾青年團の進むべき道は如何なる方行に進むか其の具體的行動方針を定めんが爲め自覺ある無名の同士の一部により研究議會を相催し○○○青年團改革綱領革案を作製され其の改革綱領案の贊成を得んと第三區青年團に提出する事に決定提出の結果幸にして一人の反對者のみにて全通過をなさしめたのであつた。この改革綱領案は第三區青年會に依つて今回の○○○青年大會に提出される段取となつた。宣言及改革案は左に發表する。

宣言

我等青年ハ自治的青年團ノ確立ヲ「モツトー」ニ常ニ自治ヲ斷行シ青年團ノ生命タル目的ヲ完成シ現實的青年團ヲ組織シ以テ文化ノ雄叢ノ操上ニ大意ニ活躍シテ共存共榮ノ新社會ヲ建設シ而ウシテ其ノ使命ヲ遂行シ御令旨ニ副ツ事ヲ期ス醒メヨ青年！奮起セヨ！進メ！一致團結ニ！

改革綱領

一、自主自治綱領
1、自治ノ精神ノ養成
2、重要事項ニ關シ幹部一任ノ依頼心撤廢並ニ全會ノ連帶責任
但シ幹部獨斷ハ否認

二、行動綱領一任務
1、行動主體進歩的青年糾合ト發見
2、役員選擧
3、發達ヲ阻止スル内部外部一切ノ對策
4、服從的圓滿策ノ撤廢
5、權利濫用人格無視不定
6、一致團結
7、因習的惡弊改善自覺ト自重
8、時代文化ト提携
9、經費節減

三、知育
1、社會教育　普及
2、政治教育　普及
3、辯論部　完成
4、圖書部設置及機關紙發行

四、德行
1、思想善導
2、善行獎勵
3、民衆藝術體育運動、趣味文藝生活美化

五、勞働綱領
1、共同作業
2、眞奉的作業

以上　大正十五年一月十五日
政革綱領審議評議會㊞
提出者第三區下麻生青年會㊞

（岐阜縣、水野貝三郎）

進め・戦へ

北陸道の西端にある福井と云ふ土地は、日本中でも一番雨量の多い土地柄ださうだ。それで入梅期になれば毎日々々のビシヨ／＼雨。冬は冬で四ケ月の餘も雪に埋められて、プロレタリアは何時目覺めるか、果も知れないドン底で桃源の夢をむさぼつてゐる。何時まで斯ふでもあるまゐと漸く福井勞働組合が福井市に出來たが、それは極端な御用組合だ。水平社も自由青年聯盟と無産青年聯盟派に分裂して終つてはゐるが、これは若狹河原市を中心にして、其の勢力は仲々侮り難い。

それに普選を見越しての、倭小自稱政治家連が、吾も吾もと小政黨の（無産階級を看板にした）樹立に鼎突合ひの、小競合をしてゐる。最早、鉛の天神事杉田定吉の時代でもあるまゐと例の賣名代議士猪野毛利榮を擔ぐ青年も大分ある樣だが、何しろ有名な事大思想の旺盛な土地だけに、階級戦は更らに振はない水平社の運動も他縣と比しては積極的よりも消極的に働らいてゐる。

奮へ、進め、戰へ。而して一刻も早く組合と研究團體を組織せよ。それが俺達の目下の急務だ。（福井、黎仁生）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

農村運動の諸問題(一)

山川亮

(一)都會と農村の差異

資本主義は決して過去現在未來の世界を通じて、永久的にこの人類社會に勢力を持つものではない。それは過去數世紀の間に渉つて人類社會を支配して來た所の、歷史的勢力であつたことは之れを認めなければならぬが、決して人類社會の最初から存在したものではなく、また未來の人類社會に渉つて支配的な勢力を持續するものでもないのである。

人類はこの資本主義時代の社會に於て、その經濟上には非常な發展を遂げはしたが、同時にその蒙つた慘害は夥しいもので資本家階級が自分達階級以外の階級者に對して、政治上並に經濟上に振つた獨裁權力は、今日全人類の十中の九割を占めるプロレタリアを生む結果となつたのである。

斯くして資本主義は自らの生んだプロレタリア階級の爲めにその位置を讓らなければならぬやうになつて社會主義社會は、必然的に人類社會の規範となるのであるが、然らば此資本主義の特長とは如何なるものかと云ふに、先づ第一には商品生產と云ふことである。即ち生產の目的が人類社會の必要の爲にあるのではなくて、生產品からして利潤を獲得せんが爲めの目的であることである。その結果は市場の爭奪が行はれ、その爲めには國と國との戰爭に迄も導かれる。今日の資本主義國家の戰爭の原因は悉く、この資本家同志の市場爭奪から發生してゐる。第二は生產機關の私有、即ち土地、鑛山、工場、原料、機械等の獨占であつて、これは次第に小數者の手中に之等の總べてが握られて終ふ傾向である。その結果は次第に少數の生產機關所有者と、多數の非所有者との二個の群に分れて、生產機關非所有者即ちプロレタリアは絕えず失業の危險に脅かされる。斯くして少數資本家階級の獨裁權力は、前述の如くに一國の政治經濟上の動向を支配するが、然しながらその絕頂に於て資本主義は其時既に自らの內部に崩解作用を起す。即ち生產の無政府的狀態が惹起す所の周期的に襲來する恐慌がこれである。その結果は益々人類社會に於けるプロレタリア群の增加となり、プロレタリアは階級としての結成に急ぐやうになる。

この必然の眞理を宣明するものが社會主義の思想であり、それを將來する可く努力獻身ずることが社會主義運動なのは云ふ迄もないことである。この社會主義の運動は夙くに都市勞働者の間に行はれてゐるにも拘らず農村に於ては頗を微々たるもので、運動らしいものが勃興するやうになつたのは極めて最近の事に屬する。これは獨り我國のみでなく世界各國その何れの社會運動史を觀ても、都市に於ける勞働運動と農村に於ける勞働運動との間には、その年月に於ても進步發達の程度に於ても非常な差異を發見する。同じく資本家階級から搾取されてゐる勞働者階級でありながら、何故に斯くも都市勞働者と農村勞働者との間には大きな差異が存在するのかと云ふに、その理由として次のやうなものが擧げ得られる。

(二)農民の反動的特徵

前章にも述べ來つた如く社會主義運動はプロレタリア階級の運動であるにも拘らず、尙ほまたそのプロレタリア階級の半ば以上を占めるものが農民であるにも拘らず、社會運動勞働運動が何故に農村にその根を下ろさなかつたのかと云ふに、その原因は農民の保守的傾向の濃厚なことである。これは智識的に常に都市勞働階級よりも遲れてゐる農村の勞働者階級は、全般的

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に犯て常に保守的にならざるを得ない。この保守的傾向を利用するものは資本家階級であつて反動運動が都會よりも農村に執拗に喰ひ込んでゐるのは、資本家階級がこの農民の保守的傾向を巧みに利用した結果である。次ぎに都會の工場勞働者等の如くに、農村勞働者は地域的に密接してゐない結果である。その爲めに勞働者としての階級的團結が絶えず稀薄にされ、階級的運動が困難である所から階級心理が殆んど絶無に近い。これがプロレタリア階級運動としての社會主義運動や勞働運動の、農村に容易に浸潤し得ない原因である。第三には都市勞働者と農村勞働者との利害相反の事實である。今日の資本主義經濟組織の下に於ては、都會勞働者は生産品の價格の低下を喜び、農村勞働者はそれに反して生産品の價格の昂騰を喜ぶのは止むを得ない事實である。これは前章に述べた如く今日の生産が社會の需要の爲めにする生産でなくして、資本家に利潤を獲させる爲めの商品生産である以上、當然に起る現象であつて、この都會と農村との相反は社會主義經濟組織即ち需要の爲めにする生産方法に改革せられる事に依つてのみ始めて解き得る矛盾なのであるが、農民はその因つて來る所のものを深く究明し得ないが爲めに、直ちに農村と都會との相反或は都會に因る農村への搾取と速斷して、同じき勞働階級であり、被搾取階級であることの認識を拒むのである。今日資本家階級並に其の代辯者達が農民に向つて極力説明する所の、都會と農村との利害不一致論はその根源を洗へば、自らの制度の罪惡を吹聽してゐるものなのである。

社會主義思想乃至はその運動が何故に農村に根を下ろし得なかつたか、また今日と雖も都會に於ける運動のそれと比較して何故に斯く迄も狹くまた遲れてゐるかと云ふ原因は、大體に於て前述の如きに原因すると思ふが尙ほ其他にも重大なものとして、近代資本主義組織が機械工業に其勢力を注いだが爲めに、自然と社會主義運動も機械工業の組織下に發生した賃銀勞働者に多く注目した事實や、その結果として都市勞働者が社會運動の指導的中心となつて來た傾向も見逭すことは出來ない原因であるだらう。

然しながら社會主義實現の過程に於ては、都市と農村との提携乃至は調和と云ふことが缺くべからざることなのである。その意味は都會に於ける社會主義××はそれが成功しても、農村の援助を待たなければそれは一時的の成効に終つて、何時かは却つて反動の爲めに倒されなければならぬからである。その例は露西亞革命に於ける露西亞農民の嚮背が、露西亞共産黨の政策を幾變轉させたかに觀て明かである。

農村と都會とは決した背反すべきものではない。それは前述の如く資本主義經濟組織の齎したものであつて、商品生産としての樣式を打破することに依つて、農村と都會とは堅密に調和し得る。同時に農村に於ける中小の地主は、眞に意味する所のプロレタリアではないかも知れないが、然しながらまたそれは農村プロレタリア運動圏外の者でもない。之等の中小地主は國家の課税と大地主資本家階級との兩方面からの搾取に虐げられてゐるからである。（これらの點に關しては特に農村に於ける鬪士諸氏の愼重な熟慮を乞ひ度いと思ふ）

（三）農民運動の核心

農村に於ける住民即ち農民を區別して富農中農小農とその下に貧農といふものを置き得る。富豪は所謂大地主で今日では都會の工業資本家を兼併せるもの即ち商工業のブルジョア階級に屬する。これの階級は如何なる場合にも、プロレタリア階級の敵對階級をなすものである。次の中農乃至小農は都會に於けるプチ・ブルジョア階級と相等しきもので、常に富農階級からの搾取と地租其他の課税に壓迫されながらプロレタリア階級の運動に對しては日和見主義を持する階級である。

今日の資本主義組織は漸次に之等の中小農を壓迫して、次第にプロレタリア化即ち貧農化しつゝある。夫は都會に於ける生産機關を所有する小ブルジョア階級者とは違つて、容易に分割

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し得られる土地の所有者であるから、農村の小ブルジョア階級たる中農階級は、自己所有の土地が富農の掌中にある貨幣と交換し得られる所から、それを手放すことに依つて富農は益々土地を獨占し、中農は土地を失ふここに依つて小農階級となり貧農階級と化して行く。即ち都會に見るが如く農村に於ても、資本主義組織は土地所有者と非所有者の二大群に明確に分劃されて行く傾向を示すのである。

勿論それは都會に於けるが如くに區別され得るものでなく、小農と貧農との差異、小農と中農との差異は頗る不明瞭ではあるが、然し之等の中小農貧農と富農との差異は、一見して直ちに判別し得られる。即ち富農は生產機關即ち土地を所有する事に依つて、其處から他人の勞働力を搾取するからである。即ち自己所有の土地を他に貸與することに因つて地代を、または小作せしむることに因つて小作米を之等の人間から搾取して生活する。然るに中農乃至小農は假令土地を多少は所有するとは雖も大體に於て其の土地に自己の勞働力を加へることに因つて、自らの生活を營んでゐる。所謂自作農である。更らに貧農に至つては自己の勞働力を富農に搾取せられる以外に、自己の生活を營み得られない狀態に置かれてゐる。

而してこの自作農の中小農階級と農村勞働者の貧農階級とは相互に複雜な關係に入込んでゐて、自作兼小作である場合もあれば、自らも耕作しながら其の一部を他の貧農に小作せしめてゐる場合もある。この關係を都會に於ける大ブルジョアと中小ブルジョア並びにプロレタリアの三階級に於けるが如くに、明確にする事は困難であつて、畢竟農村勞働運動に於ては、富農對中小貧農の抗爭でなくてはならない。

然しながら玆に最も明かにしれければならぬ事は、農民運動の核心は農村に於ける眞のプロレタリア即ち貧農階級中心のものでなくてはならぬことである換言するとそれは貧農階級を主要勢力とした農村資本主義に對する運動であつて、中小農階級は何處までもこの貧農階級に引擦られて行くものでなくてはならないことである。

而してこの中小農階級をその日和見主義から引出して、貧農階級に味方せしめるか否かに依つて、農村勞働運動の成否は決定する。それは恰も都會に於ける社會主義××が農村の嚮背に因つて成否を決すると同樣に、農村それ自體に於ける××の成否はこの中小農階級の動向に因るものである。玆に農村勞働運動者にとつての研究を要するタクチックが存する。（未完）

三越や白木や松屋や、歌舞伎や帝劇や、高層なる營養研究所や病院や、完備せる幾多の娛樂場やダンスホールや、これ等の一切が如何にして今日の搾取を自己の享樂に消費し樣かとする人々をのみ待つて居る世の中にあつては、馬鹿を見てゐる者は農民と勞働者とだけである。假說ば、大工は裏店に住む爲めに大か高樓を建て、農夫は粟と麥とを喰ふために良き米を作る。と云ふのが今の社會を結果から見た云ひ草である。……（忍）

福田狂二氏と私

岡島之助

◇

四五日ほど前、福田氏が島根温泉から藪から棒に便りをよこした。而も私に「進め」の爲めに一肌拔がないかといふではないか。私は驚いた。彼と私とは仲たがひの仲なのだ。もう彼れこれ二年にもなる國交斷絕なのだ。彼も隨ぶんであるが、私の惡口を言つたし私も負けずにコキおろした仲ではないか。その彼がすこぶる懷しい便りを平八郎といふ名で呉れたのだから、私としては一驚せざるを得ない平八郎といふのは恐らく大鹽中齋から來た彼の雅名であらう。彼は大の中齋好きだから。

◇

そこで私はすぐに筆などとつて、彼に承諾の旨を寄せた。すると今度は神田の本社から彼れの特長ある豪快な筆蹟で、同人會議に顏を出せといつて來た。よからうと行つて見ると、石川準十郎氏だの山川亮氏だの渡邊理治氏だのといふ昔なじみの顏がならんでゐる。福田氏の關羽髭も久しぶりで見ることを得た。彼もさうだらうが、かうして膝を交へて見れば懷しいことだらけだ。私は大きな瀨戶火鉢にあたりながら、しみじみ、昔を追想するのであつた。

◇

「進め」も、もう四年になるかな。早いもんだな。福田氏が「進め」を創刊したのは大正二年の二月だつた。北原龍雄君が編輯主任格で、先づ福田狂二好みとでもいふべき豪壯痛快の雜誌が、その時分

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山陰農民奮戰史

佐倉平八郎

（一）

由來山陰道の農民は長い間の地主の搾取と官憲の暴壓に苦められて來た。特に米子警察の如きは、その最も雄なるもので講演會に對する米子警察の血迷ひ振りは、特筆大書して報道に價する。最近、山陰道に於て農民運動が燎原の火の如くに、燃え擴がるや「今後農民組合の集會は種類の如何を問はず屆出をなすべし」と命令を下した。茲に於て農民組合は決然立つて、官憲と戰ふ可く決心した。

年の瀬も迫つた極月三十日、大組合の理事大山初太郎君は、大山山麓の雪深き豊房に夜間講演會を開催する事になり、常任書記の佐々木隆太郎君が、米子警察前の時計と睨みッこで、開會三時間前に屆書を同署に投げ込んで、臨監の部長が汽車の時間に間に會はなくて、署長は閉口たれる、佐々木君は苦笑する。

大晦日の年末警戒に米子署は管内巡査の總動員。それを附込んで其日の午後一時に、突然十二通の講演會屆書が警察署に突出された。

農民組合側では廿四名の辯士を選抜して、十二班に別け、大晦日、元日、二日と晝夜兼行で各地一齊に、講演會座談會を開く計劃を立てた。これに逆上した米子警察では、五十餘名の巡査を狩り立て、肝心の歳末の米子市を棄てゝ、一齊に雪積む農村に向つて押掛けたので、理事長松本積善君は巖村で檢束され、高德村に向つた佐々木君は、淀江驛に下車した所を列車中から尾行して來た數名で捕へられ、危く逃れ出た吉田繁敏君は淀江の街頭でフン捉まる。高麗村では大山理事は家の中で檢束されんとし、格鬪數分後に多勢に無勢で遂に捕はれ、會計永井信義君は宇田川村で、理事渡邊茂一郎君靑年部員沖川正藏君も同時に檢束された。

一方南部方面では、汗入地方に出演の噂のあつた湯原主事と尙德村に出演の筈の野口理事は突如として目下立入禁止假處分を受け、最も爭議の激烈な大國村に現れた。之れが爲めに野口理事を檢束の爲めに、尙德村に向つた巡査は、雪降る中を終日戶外に立盡し、一方同地を通過する電車を、一一調査したが姿の見える筈はない。大國村では同地支部長吉原正君、開會を宣してる所へ、米子署の巡査二名が來て即時解散を命じ、野口理事と吉原君に米子署に同行を求め、野口理事は承諾したので、巡査は來會者を一一取調べ始め湯原理事を搜した。洋服姿の湯原氏を認めた巡査は「君の姓名は」私は「講演を聽きに來た者です」「君の住所は」。この時聽衆の一人が「法勝寺村だよ」と云つたので、巡査はすかさず「君の姓名は」と問ひ詰めた。「今田淺吉です」。と巧く遁れた。

（二）

危く虎口を脱れた湯原氏は、雪の中をヒタ走りに法勝寺電車

福田氏の住宅だつに鈴ケ森から出たものだ。私が北原を訪れて進め社へ行つたら玄關に小牛ほどの犬が長々と寢そべつてゐて足の踏み入れようがなくて困つたことなども思ひ起される。その時初めて北原の紹介で音に聞く福田狂二なる人物を見たのである。中學時代に讀んだことのある古い支那の繪草紙に出て來る英雄のような偉大な氏の風貌を編輯室に見出した時、私は思はずヘッとした。身の丈は八尺もあつたようにその時は思つた。とに角、生きてゐる英雄といふものを目の當り見たといふ感じがした。それから私は間もなく北原君に引つぱり込まれて進め社の人になつた。がその時は、福田氏は社から少し離れた所へ奥さんと二人で別に家を構えてゐたから、この生きてゐる英雄と寢食を共にするわけに行かなかつた。が、氏は時々編輯室に顏を見せにやつて來ては社の人々に小使をくれたり、帽子だの服だのを買つて來たりした。

◇

そのうちに九月の大地震が來た。進め社は第一番に自警團に睨まれた。福田氏は愛刀を撫して斬り死の覺悟までした形勢が惡化したので、品川署もほつとけず、福田氏と私は署長室に寢具食器などを運んで監禁されることになつた。そんな生活も二十日ほど續いたらう。私は本も讀み飽きて退屈で仕方がなかつたが、氏は署の巡査を走らせて菓子だの號外だのを買せて自分の家みたいに暮してゐた。

◇

その年の十二月彼は進め再起の旅を大阪で揚げた。私は東京に赤坂邸宅なるも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

停留所へ飛んだ。そのゴタ〳〵最中に野口理事は巡査の眼をくらまして、近隣の農家に匿れて終つた。吉原君は官憲の間拔けさを冷笑しながら、米子署に檢束されて行つた。其晩は十二ヶ所に座談會が盛んに催された。

明くれば一月元旦、早朝から湯原主事は汽車で、聯合會本部に現はれ、同時に野口理事も電車停留所國道筋の警戒を拔けて馬を飛ばせて驅けつけた。留守居役の坂本副主事は、計劃を怠らなかつた檢束者の遺志貫徹を期して戰へと、各同士の間には幾度か語り交された。

湯原主事は赤井手に野口理事は尾高に坂隠正隆君は福生に、其他辯士の新年を加へて、二十ヶ所の講演會は昨日に增して烈しかつた。

連日の奮戰に警察側も弱り果てた。彼等は衣食の爲めに忠勤振りを見せてゐるのだ、巡査連は泣面を始めた。尾高の講演會大成功と、馳せ歸つた野口理事は叫ぶと、本部樓上からはそれに答へて福生には辯士不足早く〳〵との聲に應じて、野口理事は馬首を翻へして福生に向ふ。湯原主事を赤井手の講演會に大成功して、本部に歸るや否や直樣に野口君の後を自轉車で追ふ

福生村の講演會は大成功、會場は立錐の餘地もなく、各辯士は連日の苦戰に聲を涸らして、熱叫し絕叫する。滿堂の聽衆は躍り上つて熱狂する光景の最中に、飛込んで來た警官は（治安警察法に依り解散を命ず）と怒鳴つた。辯士は同時に屋外に飛び出す、聽衆もそれに續く。屋外は既に暗かつた。

二日夜の講演會は廿五ヶ所だ一同の元氣は益々增して、七百名の組合員に總動員は下された各辯士は講演會場へと四散した野口理事は最も遠い法勝寺村與野へ、夜道を四里ばかり馬蹄に凍る大地を蹴つて突進した。村瀬義尙君は尙德村市木へ、湯原主事は吉谷の靑年會場へと行つた斯くして三ヶ日の講演會は大成功に終つた。

「種類の何たるを問はず屆出でよ」との警察の命令は、遂に今日の如く數十ヶ所の屆出となり何處に辯士が居るのやら見當は着かず、年末年始に警察はがら明きとなつて、巡査は疲れ切り不平だら〳〵の有樣で、三日となると雪は間斷なく降り頻る。

（三）

總攻擊の噂を聞いた警察では直ちに署員の總動員して、先づ日野川橋を警戒し、汗入、箕、蚊屋の地方より、米子町に入る道を絕つた。之が爲め恒例の出雲清水寺三ヶ日詣では、一人として日野川橋の通過を許されず野口理事宅には未明から檢束の爲め二名の警官が向つた、野口理事は不在であつたので、直ちに電車停留所と國道筋は警戒された。野口君は某部落に潛伏してゐた。坂隠正隆君は遂に捕はれ、同志の消息は全く絕えたので、湯原主事は愈々意志を固くし、本部入口を閉じ梯子をハヅして、何時にても飛び降りられる一方戶を開けて、傳令を諸方に飛ばした。

この四日間の農民組合の苦戰は遂に効を奏して、警察も全力盡きて檢束者全部を、此日の午後に至つて放還した。そして妥協を申込んで來た。

のを營み進めのために一臂の力を致した赤坂浪宅はやがて「討閥社」の看板がかけられて、所謂討閥運動が、ここを本城として起つた。四方の浪人は足繁く赤坂浪宅の門に出入した。浪宅には私の書齋が在り庭に柘榴の花が血の樣に咲いてゐた等々とこんな話を書いていたら切りがないが、そして福田氏と私との交情は綿々と續いたようだが、まあ一體、彼と私とはこれまで幾度離合したことであらう。而もその離合たるやいつもきまつて義理と人情の板挾みになつてのそれであつた昨日までの仲たがひもやはりそれだつた今日の握手も或ひは浮世の義理と情けに迫られての握手であらう。が、この握手かさていつまで續くことやら、人事雲千變の感にたえぬ。妙な感傷的な氣持になり、杯をおいて埋草一篇を草す。

悩み

長田滋利

抑へきれない
欲求の
みたされざる
苦惱
忘れんとして
グラス握れど
醉はんとて
酒は醉めども
あゝ遂に
忘れず　醉はず
目がしらに
あつく　あつく
にじむものあるのみ。」

神戸大阪商船會社
亞米利加丸水夫

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會講談

其夜の新徴組

高田浪人

(一)

暮れ遅いと云はれる春の日も、そろそろ町の屋並の彼方に沈みかけて、淺草觀音堂の高い棟瓦の上にだけは、まだ赤々と落日の餘照が殘つてゐる。朝早くから人足の絶間もない程に繁昌する淺草寺も、夕暮方となつては流石に人足も途絶え勝ちで歸路を急ぐ人の足も何となく物の怪に追はれるやうに見えるのも、無理はないと云ふのは、此頃この淺草界隈は頗る物騒で、毎夜のやうに辻斬の噂ばかりで持ち切つてゐるからだ。

一昨夜は並木通りで二人斬られた。昨夜は山谷堀を上つた所で生首が曝されてゐた。いやその前々の夜は吉原歸への駕籠が、日本堤で襲はれたの、やれ吾妻橋の欄干に片腕が引懸けてあつたのと、何れも餘り氣味のよくない話ばかり。もう暮六つが打つて終へば、淺草寺界隈は晝間の盛りに引替えて、水を打つたやうな寂れかたである。

これに業を煮やしたのが、目明しの六次である。

『何處の何奴だか知らねえが、糞面白くもねえ野郎だ。吉原からかけて觀音樣の御境内までを、かう荒されちや夜遊びをしやうつて云ふ野郎の數も減るばかりで、ピンは松の位の花魁からキリは奥山の姐さん達まで、泣かざあなるめえが、チエッ……』と六次は舌打ちして、豆絞りの手拭で鼻の頭をネヂ上げながら

『第一、新門の親分の顔にもかかはる事だからなあ。』と獨言。

目明しの六次は、その頃、淺草のと云ふよりも江戸の大親分で男を賣つてゐた新門辰五郎から、盃を貰つた一人であつたのだ。六次は煙管の雁首を自棄に一つ、火鉢の縁にたたきつけると、次の室の方へ首を伸して大きな聲で怒鳴つた。

『やい鐵、ゐるか。』

『へえ、何か御用なんでげすか。』と鐵が顔を出すのを待ち兼ねたやうに、

『鐵、てめえ今夜俺と一緒に來ねえ。』と浴せかけた、

『例の辻斬の一件でげすかい。』

『さうよ。幾ら徳川樣の御治世が末になつたからつて、この半月餘りの遣口と云ふもなあ、餘り人を踏みつけてるぢやねえか毎夜の樣にこの盛り場を荒されてよ、それで誰の仕業だか、まだ見當がつかねえつてな、意氣地が無さ過ぎると、俺あ思ふんだ。第一、新門の親分に對しても濟むめえと思ふんだ。』

『まつたく』と鐵は膝頭をポンと打つ。

『今夜あ俺とてめえとで、その人斬野郎に斬られる覺悟で出懸けやうぢやねえか、てめえだつて南部の鐵と云はれてる命知らずだ。腕の一本や二本は惜しかあるめえ。』

『やうがす。あつしがその野郎に斬られてる隙に、親分は野郎のドテッ腹へかかつて下せえ。』

『それぢやあ、鐵頼んだぞ。』

二人の命知らずが、愈々今夜は辻斬りに斬られに出やうと相談は出來上つたのである。

(二)

その時は慶應二年の暮春である。徳川三百年の太平も搖らぎ初めて、京都に本據を構えた勤王黨の浪士と、徳川家新規召抱えの新選組の壯士の面々とは、既に白刄を交へて維新革命の偵察戰をやつてゐる、血腥ぐさい時代である。

江戸に潜入した勤王の浪士が、餘憤の遣場のない惡戯か、それとも佐幕黨の假面をかぶつた物盗りの仕業かは知らないが、夜毎に無慘非道な辻斬が行はれる。腕は確かに冴えてゐる證據

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

には、どの死人の斬口を見ても、唯の一太刀の下に斬り棄てられてゐる鮮やかさ。これには檢死の役人達も、何れも感歎せぬものはない。

暮れ六つが打つてから、もう大分の時間が經つ。目明しの六次は乾分の南部鐵と連立て吉原を一廻りしての歸り路である。

『鐵、もうそろそろ何とか出會はしさうなものだがなあ。』と六次は待ち兼ねたやうに呟く。

『でも、まだ時間は早いんですからねえ。』

『怪物は丑滿時と相場がきまつてるかな、フフ。』

『親分、兎も角も奥山を一廻りして來ませう。』

『うん、左様しやうか。』

二人は軈て淺草寺に一寸參詣して、その境内を裏へ廻つた。

『どうだ、この寂れ方は。人つ子一人通つちやゐねえ。まだ宵の口ぢやねえか。』

『さうですねえ。だけど不意打に首と胴とを離されるのも、餘りぞつとしませんからねえ。』

『ハハハ、、鐵にも似合はねえことを云ふせ。』

二人はこんな事を呟き合ひながら、寂れ切つた奥山の矢場を一軒一軒と覗いて歩いた。そしてぐるつと一廻りして、再び吾妻橋の方へ出て來た頃は、もう夜も更けて、春の朧月が靜かに隅田河の水の面を照してゐた。二人は橋の畔に佇んで、河面から吹き上げて來る春の夜風にいい氣持になつてゐた。

がその時である。不意に近くで女の悲鳴が聞えた。二人は思はず顔を見合せて、

『おい鐵つ。』

『親分つ。』

女の叫聲は一度は絶えたが、また前よりは一層強く聞えて來た。それと同時に二三人の足音がバタバタと續いて來た。六次と南部鐵の二人は、その聲や足音をたよりに驅け出した。然しそれは左程に遠くまで行く必要もなく、すぐ目の先の花川戸の通りへ出た所で、四五人の人影を發見けた。南部鐵は命知らずと名を賣つてゐるだけに、これを見ると鐵砲玉のやうに、その人影の中に飛び込んで行つた。

『やい、汝らあ、その女をどうしやうッてんだ。』

と鐵は大手を擴げて突立つた。

『貴様は何者だ。邪魔立てすると、一刀の下に斬棄てるぞ』と思ひも懸けず、かう答へて振向いたのは一人の武士だつた。

『斬り棄てる。ヘン面白い、斬つて貰はうぢやねえか。俺も新門の乾分の南部鐵だ。そんな僞せ武士の腕で、南部鐵が斬れるものなら斬つて見やがれ。』

『生意氣な言を吐かす素町人め。斬つてやるから、新徴組の刀の切味を覺えて置け』と、一人の武士はもう白刃を引拔いた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新徴組と聽いて流石の南部鐵も、オヤツと思つて二の足を踏んだ。それにしても不思議なのは、新徴組の面々が多勢で、一人の可弱い女を取巻いて、而かもその襟頸をさへ引摑んでゐることである。

『こいつは譯が判らねえ』と鐵は心中で呟いた。

『どうだ南部鐵、新徴組の名を聽いてから、急に命が惜しくなつたか。さあずつと前に出ろ、少し南部鐵に鍛えを入れてやらう。』と相手の武士は嘲弄するやうに云つた。

『貴公、さう云ふな、南部鐵と云へば吾々共も承知はしてゐる男だ。新門辰五郎の身内の者だらうが。』と他の一人の武士は仲裁顔にかう云つた。

『左樣、新門の身内の目明しの六次の家に、厄介になつて居ります南部鐵で、へえ。』と鐵は前の意氣込みは何處へやら、南部鐵は頻りと頭を搔く。

其處へ六次も來て、見ると新徴組の市中見廻りの役人なのでこれは意外と云ふ顔附。

『新徴組の旦那衆ですか。これはまた一體、何と云ふ事なんでせうか。』と六次は女を指した。

『いや六次か。今少し早く來れば、トンダ面白い芝居を見られる所を、惜しい事をしたな。』

『へえ。』

『いやさ、お前の家の南部鐵がの、吾々を捉えてトンダ啖呵さ。いや流石は命知らずの男だけはある。吾々新徴組に向つて、恐氣もなく廣言の出來る者は、天下廣しと雖も、この南部鐵だけぢや。ハハハ、、、』

賞められるのか、冷かされるのか、この語を聞かされて、南部鐵は背中に汗びつしより。

目明しの六次はそれを押えて、

『時に旦那、この女はこれは何うしたので御座いますか。眞逆に旦那方が、この女を捉えて惡戯けでも御座いますまいに。』

『これは六次、この頃噂に高い辻斬の張本人だ。淺草界隈の辻斬は、皆此奴の仕業だ。』

『御笑談でせう。旦那、こりやあ女ぢやありませんか。』

『女と見えて實は男さ。男も男、實に立派な腕前の男だよ。その證據は今見せてやるぞ、六次。』

それでは先刻の女の悲鳴は何者だつたらうと、六次は茫然と考え込んだ。その瞬間、眞中に取籠められてゐた女は、ひらりと身を飜へすと、取圍んでゐる武士達を驅け拔けて、二間ばかり離れて立止まつた。

『やつ、失敗つた。』

『逃がすな、早く取圍め。』

と、新徴組の面々は一時に刀を拔いて、じりじりと女裝の敵に詰め寄せる。此方は唯一人、今はもう絶對絶命となつて、懷に呑んでゐた短刀を振翳して防ぎながら、隙あらば逃げ出さんと身構えた。

目明しの六次と、南部の鐵は何が何だか譯が判らず、狐に化された形で飽氣にとられて立つてゐるのである。

（三）

新徴組の猛者連も仲々に太刀筋鋭く斬つては懸るのだが、相手はそれ以上の腕前すぐれた者と見えて、僅か一本の短刀で五人の太刀を受け流して、容易には寄せつけやうとはせぬ。新徴組五人の者は靑眼に構えて、じりじりと詰め寄せると、此方はそれに連れて同じ程にじりじりと後退りして行く。遠くもならず、近くもならず、唯、相互の呼吸だけがハッハッと微かに聞えるだけ。見兼ねた例の命知らずの無鐵砲の南部の鐵が、盲目滅法と云ふ勢で、不意に横合から飛び懸つて行つた。流石に思ひも懸けぬ不意打ちに驚いて、防ぐ手段もなかつたのか、『あつ』と叫んでよろめくやうに突飛ばされて終つた。

六次はそれを見て、その地上の人影に向つて躍り懸ろうとし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、なほよくよく見ると突飛ばされて打倒れたのは、女裝の怪人ではなくて、命知らずの南部鐵だつたから、見る間にさつと顏の色を變へた。女裝の怪人は依然として、前と同じ場所に突立つて少しも體の備えも崩れて見えぬ。天魔か鬼人か、命知らずの南部鐵さへ、もう二度と飛び懸る勇氣はないらしく、地面に腰を据えたまゝ、額の冷汗を拭つてゐるのだ。

軈て如何なる隙を見つけたのか、女裝の怪人は一目散に逃げ出した。その逃足の早いことは、まるで風のやうで、新徴組の連中はもういい加減に疲れが來てゐる所へ、この逃足の早さでは、到底追ひ附けるものではない。目明しの六次はかうなると商賣柄だけに、その怪人の跡を追つて、どうやらかうやら續いて行つた。

怪人は怪魔のやうにドンドン逃げる。六次も續いて追ふ。新徴組の連中はと見ると、これはずつと後れて、遙かに彼方から走つて來る有樣だ。道は隅田川の畔へ出た。六次はもうかうなれば手の內の者だと勇み立つに引替えて、流石の怪人も疲れが來たのか、足は次第次第に鈍つて來る。六次は勇氣百倍して、まづ大喝一聲相手の膽を挫くつもりで、

『御用ッ。』と浴せかけた。

相手の足は更らに鈍つて、今はもう手を伸せば身體に觸りさうな所まで近寄つた。然し六次は流石老練な目明しである、それでも充分に要心して、まだ飛び懸らない。

『御用だッ、神妙にしろ。』と一喝浴せかけて置いて、取繩をしごいて、さつと投げた。手練の鮮やかさは、見事に繩は相手の身體にかゝつた。六次はその繩をたぐりながら、背後から組附いた。否組附かうとして、相手の肩に手を懸けた刹那だ。六次の身體は敵の肩越しに、もんどり打つて投げ出された。それでも取繩の端は固く握つてゐたので、彼は突嗟に跳ね起きると『失敗つたッ』と叫びながら、今度は眞向ふから飛び懸つたが、然し其時だ――。

怪人は手に握つてゐた短刀で六次の水落の所を、力一杯で突上げて終つた。

『わッ』と叫んで、六次がたじたじとなつた時には、彼の水落に差込まれた短刀の切尖は、ぐりッ、ぐりッと肉をえぐつてゐた。

虛空を摑んでどつさりと打倒れた目明し六次の姿を眺めた怪人は、

『時世も知らずに權力を賴りにして、民百姓を搾り取る不淨人奴の最後は、皆かうしたものぢや。今に御代も變つて、京都のものとなるのも左程に遠い事ではあるまい。』

× × × × ×

新徴組は遂に怪人を取逃がした。五人の者が漸く辿りついた時には、既に女裝の者の姿はなく、目明し六次の無慘な死體がまだ生温かい血を流してゐた。そして怪人の眞相は今日になつても遂に知ることは出來なかつたが、然し德川の世も愈々末となつて、鳥羽、伏見の戰ひの始まる半年程も前の事である。十五代將軍慶喜は上洛して、天皇に拜謁して攘夷の節刀を受ける爲めに、二條城に入つて休息した。土佐の志士後藤象次郎は、直ちに二條城に赴いて慶喜將軍に謁して、時世の既に非なる理由を語つて大政の奉還を勸告した。其時、京都朝廷には一代の梟雄と唄はれた岩倉具視があつて、德川幕府の實力の最早や力ないのを明察して、回天の大事業に着手する爲めに、薩長二州の兵力を京都の內外に集めて、戰端を開く機會を狙つてゐたのだから堪らない。後藤象次郎の智辯に動かされて、大政奉還に決した慶喜も、見事にその先手を打たれて、伏見、鳥羽の戰ひは始まつて終つたのである。

例の女裝の怪人はこの時に始めてその正體を露はした。この怪人こそ誰あらう、當時劍を執つては無敵と云はれた山岡鐵太郎さへも、時には『彼奴は俺の好敵だ』と嘆せしめたと云ふ、島田左近行柾の忍びの姿であつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

吾等の歴史

早野三郎

一、「××」は必ず來るかと云ふ質問は我々がしばしば主義者以外の人から受ける質問である、こんな事はわかり切つてゐる樣で民衆にはなかなか解つてゐない、あだかも豊臣秀吉が天下を取る取らぬかの問題の樣に無産階級の勝利について偶然性を與へてゐる、秀吉が運よくも明智光秀が本能寺で信長を殺す樣な事件に偶然出會ひ、また運よくも光秀を破る事が偶然出來て、天下を取つた事柄の樣に、我が日本無産階級も運がよければ天下が取れるが、運がわるいと永久に資本家の搾取の下に甘んじなければならないかの樣に考へてゐる人も多い。

―が事實はこれと異つて、日本の無産階級が資本家をたほして、天下をとるのは必然的なのである、もう、現在から、否歴史が始る以前からちやあんと豫定された事なのである（唯、我等の問題とする所は、如何にして一日も早く、また出來榮よく、我が無産階級を解放させるかと云ふ點にある）

―何んな理由があつて、無産階級の勝利は必然的、豫定的なのか、……と云ふ質問に答へる方法はいくらもある、マルクスはこの事實を完全に證明せんがために半生の前後四十二年を費ひして資本論を書いた、レニンは露西亞の民衆を解放すると共に此の事を實驗的に證明した、が、我々はこの他にも我々がブルジョアの小學校で習つた日本歴史の智識を基礎としてもこれを知るのである、そこで我々は一つその方面からこれを研究して、諸君と共に我が無産階級の勝利の確實な事を知り、再び始めの樣な質問を受けた時、容易に打ち破つてやらう。

二、先づ我等が、ブルジョアの小學校で學んだところによると、我國は神武天皇大和御征服から始つて、物部、蘇我などゝ云ふ豪族が權力を握つてゐた時から大化の改新以後、藤原氏を中心とする奈良京都の、公卿が勢力を占め、その次には源平二氏の爭鬪、下つては、信長、秀吉、家康の時代、そうして、王政御維新と共に現代に及んだのである。

三、（イ）ブルジョアの小學校で、物部だの蘇我だの藤原だのと云ふ貴族の時代として敎へる時代を我々は奴隷時代と呼ぶ何故、我々がさう呼ぶかと云ふと、其の當時の社會組織は上に物部だの蘇我だの藤原の貴族があり下に「部」とか「曲」とかと云ふ半奴隷、そのまた下には、「やつこ」と云ふ純粹の奴隷があつた、つまり、上には貴族が居て「部」とか「曲」とか云ふ半奴隷や「やつこ」と稱する奴隷をしぼつてゐたのである。

尙「やつこ」とその所有者の意志一つで勝手に牛馬の樣に賣買―と云つても其の時代は貨幣も少かつたので―他の品物と交換されたのである、そうして國家はこの貴族だけの國家である戰爭はこの貴族が奴隷を新に得るための戰爭であつた、神宮皇后の三韓征伐では、どれだけの奴隷を日本へ略奪してきたかわからぬ程である、熊襲征伐でも、蝦夷征伐でも澤山の奴隷を日本にもたらした、物部守屋が蘇我の馬子と戰つて敗れた時には、物部の一族二百七十三人が四天王子の奴隷とされた、と云ふ樣な記事も歴史に見える

（ロ）、屋島、壇浦の話で名高い、源平二氏の戰爭は新に奴隷のうちから起つた武士が、藤原氏を倒した後にお互にやつた内輪げんかである。

―だが武士の世の中、封建時代とは何か、我々はこれを、農奴時代とも云ふ、それは當時の支配階級の支配形式は封建的であり、被支配階級はやはり奴隷の如き境遇にある農奴(百姓)であつたからである。

―上には武士階級が威張つてゐた、その武士の間にも、上には幕府の將軍、執權があり、その下には大名、地頭があり、そのまた下には普通の武士が居た、そうして皆んな一致團結、一つになつて、百姓をしぼりと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

つた、百姓は今の百姓と少し異つてゐて、自由に自分の土地を離れて他に轉ずる事が出來なかつた、百姓は土地にくつついたもの、土地に附屬したものと考へられてゐた、斯うした百姓を農奴と云ふのであるが、彼等は「泣く子と地頭には勝てぬ」と云つて、十俵とれた米は六俵、七俵も武士に略奪されてゐた、これを「六公四民」とか「七公三民」とか云ふ、秀吉は朝鮮征伐の様な無用な戰や、豪しやを極めたので、搾り方もづい分ひどく、この「七公三民」から「八公二民」まで搾つた。家康始め德川幕府の搾り方はなかなかずるくて「難儀にならぬ程にして」氣ままをさせぬが百姓共への慈悲」(家康)「百姓を治めるの法は一年入用の食料だけを殘して、其の餘は年貢に取り、彼等の手許には財の餘らぬ樣に、且つ不足なき樣に治むべし」(本田正信)ださかぬかして、百姓をあんまりいぢめると一毀、打毀が起るので、食ふだけはあたへる樣にして、殘りをすつかり搾ると云ふ方法を採用した。(だが幕府の晩年にはもうこれもおつつかなくて盛んに搾つたので、一毀、打毀、暴動、米騷動が隨所に爆發した)

封建時代、即、農奴時代の國家は勿論武士の國家で百姓町人は政治にあづからない。戰爭は前時代の戰爭が奴隷獲得の戰爭であつたのに對して土地獲得の爲めの戰爭である、神宮皇后の三韓征伐、は單に日本人へ貢物と、奴隷をつれて來ただけで、朝鮮の土地を侵略したわけではないが、豐臣秀吉の朝鮮征伐は彼自身豪語した如く明に彼が朝鮮王となつて、朝鮮の百姓を搾る計畫だつたのである、斯くの如く戰爭と云ふものはいつでもその時の支配階級の利益のために行はれ、その形式もその時の經濟狀態社會の有樣によつて變るのである。

また現代の戰爭は金融資本主義的戰爭といつて、ブルジョアの利益のため、資本家の繩張り爭ひとして行はれる。

——だが、こう云ふ風に武士の世の中になつたのは、また歷史があつた、前に「部」とか曲とかの半奴隷の話をしたが、これは大化改新の後には土地を與へられて百姓となつた、と少し下つて、藤原氏の全盛時代に藤原反對の貴族たる源平二氏は地方に下つて國主となつた、今で云へば地方長官となつたわけである、ところが、この地方長官なかなか拔目なく、自家所有の奴隷に反抗の精神がみなぎるのを視て、これでもつて軍隊を編成した、これが「武士」と云ひ「家人」と云ふものである、だから武士は奴隷の後裔である、「一家人」と云ふ言葉は其頃から武士と似た意味に用ひられ出したが前時代には私人の奴隷の一種を稱したのである。

——源平二氏はこの奴隷を引きつれて藤原をたほして、武士の世とした、永久の亂建武中興は一面から見ると、滅びんとする舊階級たる、貴族の最後の武士に對する抵抗であつた。

が、この武士階級はこれと殆ど同時に、新興の勢力を利用して、昔から其の傾向のあつた、昔しは半奴隷、今は百姓になつた階級を完全に農奴化した、最下層の奴隷が一躍して支配階級となつたのである。この支配階級としておさまりきつた所はいけないが——なんとしても、昔しにも、斯樣に奴隷が天下をとつたためしがあるのだから賴もしい。

(一) 封建制度は德川氏に至つて絕頂にあつた、だがマルクスによると、支配階級の勢力が絕頂にある時、即、被支配階級の反抗を始める時である、これを我々は前時代に貴族がたほれて武士が興る時にも見た、德川幕府の組織は足利時代の樣に群雄割據でなく、中央集權的、帝國主義的であつたが、この時が德川氏、否、封建制度ボツ落の第一步だつたのである(資本主義が帝國主義化した今日と比較すると面白い)德川氏の下に壓迫されてゐた、江戶、大阪、堺、京都を始め諸都市の金持は次第に結束して、武士大名に金を貸して、利子をピシピシ取りたてて彼等を貧窮にしたり、相場を始め物價を勝手に左右して武士を苦しめ出した。武士も下層の方は今日の洋服細民と同じ樣に支配階級たるの恩點にあづからないのみか、生活難に見舞はれるので色々不平を並べたあげく、封建組織に漠然とではある

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

が不平を持ち始めた、そこで、各地の富豪は是れと結び、また時代に不平な貴族と結んでやつたのが明治維新である。

（二）さて明治時代は資本主義の時代である、今までの町人の大きいところは新たに工場を起し、礦山を開き、銀行を造り船會社に化けて、農村を追はれた農奴（百姓）や、家祿を失つた武士や、職を失つた職人をやとつて、彼等の骨の髓まで搾らんとするものとガンバつた。

――つまり新たなる賃金奴隷の世の中は到來したのである、さきに掲げた「本田正信主義」は依然として續いて勞働者を今度はより巧妙に搾ることゝなつた――ところか俺等一日の賃金は俺等一日の生活にもこと缺く樣になつた。

四、資本主義時代は三つの時期に別けられる、封建的勢力と戰つてゐた時期、資本主義が勝利を得て全盛の時、資本主義が帝國主義的になつて尙一層全盛に見える時と。

だが、我が日本の資本主義は色々な周圍の事情からして、それに急に百年も進んだ歐米の資本主義に接したために、資本主義の第一階段たるプロレタリアと協力時代、第二階段たる、自由主義時代を素通りして第三の帝國主義時代に飛び込んだ（この點は甚だロシアと似てゐる）

――帝國主義的資本主義の現在の我國は今後益々盛にその本領を發揮して、無產階級を壓迫し、好戰的になり、機會さへあれば日本にも伊太利式、ムソリニ式の壓迫政治をせんものと、無產階級のすきをうかゞふであらう。――と共に無產階級は一致團結して殼を吹きとばすに違ひない。

五、即、貴族時代より、封建時代へ、封建時代より資本主義時代へ――帝國主義的資本主義の時代へ。奴隷時代より農奴時代へ、農奴時代より賃金奴隷時代へ。

――賃金奴隷から次に來るものこそ、搾取なき、支配階級なき、新時代なのである。それを產むものこそプロレタリアートなのである。（完）

× × × × × × ×

支那革命の前途

◇孫文死してから既に一年になる。彼が南方支那にあつて、常に支那人に依る支那の解放を目的として鬪爭を續けて、而かも漸やくその目的の一端に辿りつかんとして、不意に上海の客舍に病沒した事は、吾々にとつても殘り惜しい思ひがする。彼が滿洲朝廷を倒すために東奔西走世界の果から果を彷徨ひ廻り、遂に其の目的は遂したけれども意外にも、その滿洲皇室よりもヨリ以上に强大な敵國の存在する事を發見したのは、彼の晩年であつた。

◇滿洲朝廷よりも强大な敵――それは即ち支那に對する列國の侵略資本主義であつた。淸國は解放されて中華民國とはなつたけれど、列國の侵略的資本主義は、益々その强暴を逞ふして、支那の財源を搾取し支那人を苦力と稱する奴隷の狀態に絞り盡すことを止めなかつた。否、否、現在でも英米日の資本帝國は支那人民を搾取する事を止めないばかりか、益々兇手を振つて支那全土に資本の角逐戰を演じてゐる。張作霖や吳佩孚やの徒は畢竟するに日本と英米の資本のカイライに過ぎない。日本と米國の支那に於ける鐵道戰を見よ。米國が嘗て獨逸が企てゝ失敗に歸した三K線の計劃完成を夢想してゐるのは、要するに歐亞を繫ぐ鐵道網に因つて支那の財力を絞取せんとする密謀の一端ではないか。

◇孫文は早くも列國の經濟戰場としての支那を　完全に支那民衆の手に奪還することが、支那を永遠に救ふ道であることを考えた。列國の資本家の兇暴な手から支那民衆を救ふには、社會主義より他に道のない事を知つた。彼が頭山滿や犬養毅や其他……の連中から遠ざかつて、支那人のみと共に支那の解放を志したのは、數年の昔になる。以來國民軍は孫文の指揮下にあつて、支那の勞働運動、社會運動の前衞となり本隊となつて、今日迄健鬪を續けて來てゐる。孫文は死しても孫文の遺志は國民軍に反影して、恐らくは支那××の鍵を握つてゐるものであらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

須らく陰險たれ

資本家政府は術策を以て、唯一の奥の手とする。故に常になす所皆表裏を持つ。民衆が所謂「お上」を讃嘆し、隨喜して安價なる涙を流す陰に、政府の魔者は赤き舌してほくそ笑むのである。

建國祭はこの陰險なる資本家政府の一策として稀に見るの盛大を以て擧行された。青年團員在郷軍人の大衆は得々として參集した、一個十錢の建國マークを胸に帶び、團服着けて行列することの如何に彼らの童心を雀躍せしめたことか？彼らの得々たるは、建國祭がお上からの御布令であり、それに從順に從ふことが彼らをして一廉の忠良なる國民たるかの誇りを感ぜしむるからである。彼らの嬉々たるは、深き内面の欣喜びはない蜿々長蛇、巷間を埋め、場を壓する、その行列をなすこと自身それが彼らの内に潛めるお祭騷ぎをよろこぶ原始的な童心を甦らせるからである。

僕は上野公園に陸續として押寄せる彼らを見た。或若者らは喇叭を吹くことに全ての滿悦を味はつてゐるかの如く、或者は列を指揮することに全感激を享樂するかに見える。然し默々として後に從ふ、生活に憔悴し切つた顔をしなだれ氣味に、仕方なく運ぶ郡衆を見た　恰も屠所に引かるゝ羊の如く！

何者が、如何なる仕組が、彼らを斯く苦しめるのであらうか

それに就いては彼らは、何らの考慮をも拂はふとせぬ。彼らは無智だ。薄墨にボカサレた自己の周圍をそのまゝ本體として滿足じつゝある。日本有數の資本家的策士共が最近一堂に會し建國祭の盛大なりしを談じて、「大多數の國民はまだどうにでもなる」と得意然として打興じたりと云ふ。彼ら資本家の建國芝居は上々の首尾であつた。

ブルジョアジーは陰險である　われらはこの陰險な戰術に對抗すべく、より大なる陰險をえらばねばならぬ。

テロリストよ！　より陰險なれ、銀座街頭一夜の警鐘は、惜むらくは餘りに公明である。ブルジョアジーはかゝる公明を兒戲程にも恐れない。何となればそは少しも彼らの根幹に觸れるものではないからである。われらは微塵も陰險を好まない。而もわれらはブルジョアジーの陰險を打倒すためには、より大なる陰險手段をも敢て執らうとするのである。亦その外に道はない。すべての戰法は閉ざされ、固く禁じられたるかの觀ある今日に於て、特に此感を深ふするものがある。

我らは終局に於て勝ちたいのだ。勝つことが目下の第一目標だ。敵があらゆる暴戾と奸策とを以て或は直接に、或は間接に無產階級に攻寄る時に、それを逆に殪すために更に此の決意を固むるの要を見る。それなくして公明の戰鬪を以て臨む限り、無產者團の浪費をもたらすばかりだ。

兒戲的正々堂々は結局に於て我らの執るべきものではない。それに對しては暴法と獄舍とが待ち受けるのみである。

我らは所謂テロリストを以て任ずべきではない。「コンミユニストは其政策を隱蔽するを陋とす」と共產黨宣言に於てマルクス、エンゲルスは云つた。其心情に於てはわれらと雖も斷じて異るものではない。が今その態度を執ることは徒らに敵に乘ずる機會を與へるのみである。

大衆の無產階級的訓練に際して、殊に其方法に關してわれらは三考を要する。今や世を擧げて、資本攻勢の凱歌に醉ふ、大衆の無產者的意識は頑强なるマスクを以て蔽はれ、其自覺から遙かに遠ざけられてゐる。

治安維持法の出現以來、陸續として擡頭を恣にせんとする勞働組合法、勞働爭議調停法等は今やこれらをたやすく通過せしむるであらう、ブルジョア議會に、其の醜姿を現はさんとしてゐる。

ブルジョアジーは一方、これらの暴力的威嚇政治の斷行と共に、他方、日本青年オリムピア建國祭等の大示威運動のマスク的新戰法を用ひて、刻々に無產階級に迫りつゝある。この奇策縱横を見よ！この硬、軟方策の並進の下に凱歌をあぐるブルジョアジーを直視してより大なる戰法を獲よ！（大橋）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め社便り

躊躇すべからず

恒例の日比谷座の蛙鳴蟬噪には何日もながら呆れるの外ない。解散を恐れ從順猫の如かりし木偶議員も税制案の妥協に依つて果然暗雲一掃され、無解散？と知るや、空理空論の凡ゆるゴタクを並べ猶與的勇氣を鼓して轟々たる波瀾を捲き起さんとす。爲に議場騷然たり。我等の政治は、彼等如き徒輩のみに依つて壟斷されるとは、我等も又禍なる哉である。

此の惰氣滿々たる無意義の醜議院に萬丈の意氣と、多大の經綸とを以つ無産者の代表が勇躍一種、馬を陣頭に進め、ブルジョア政治崩壞の○○を投じ彼等をして恐怖せしむるの日、果して何日ぞ？

我々は全日本の無産階級に愬ふ！ 生まれんとして今尚ほ難産に難産を重ねつゝある無産政黨を速かに組織せよ！

結黨前に於ける分裂は些かも憂ふるに足りない。小黨と雖も可なりである。分裂を恐れ、躊躇逡巡するは荷しくも社會改造の意圖を有する者の斷じて執らざる所である。

然らずんば我等の政治運動も遂に龍頭蛇尾に終るにあらざるか？

日本の無産階級よ！ 緊褌一番更らに勇を持つて進め！！

◇◇◇

ブルジョア政治家の見えすいた芝居の一つとして仙石鐵相は辭表を提出した。何づれ此の裏面には彼等の醜惡なる爭鬪のカラクリがあるだらうと思つてゐると果せる哉、豫期の如く留任となつた。形勢不利となるや直ちにダダをこねる彼等の常套手段である。道樂と遊び半分に政治を弄ぶ斯かる愚劣なる徒輩を速かに葬むるべく、日本の無産者よ！ 努力せよ！！（松山）

云々

◇近頃、科學的日本主義とか、日本に還れとか、何とか彼とか、とにかく日本の何とかと云ふ事がいやになるほど見聞する。日本の何とかもまだいゝが、西洋人が日本や東洋の事について何とか云つてゐるから、吾々日本人も何とかしなければならぬと云ふ奴がゐるに至つてはうんざりする。あきれてものが云へぬ。何も今更ジタバタ騒ぐ必要はないさ。しつかり腹を据える事さ。ひとに教へられて氣がついて騒ぐやうぢや、まだまだ間のあつた話さ。

◇これもその日本何とかに關しての事だが、例の建國祭とか建國運動さ、ほのかに聞くところによれば、何でも日本には社會主義者を一人でも置かぬやうにするとか、社會主義はロシヤにでも何でも國外へ放逐してしまふとか、何とかするとか云つてゐるさうだが、ほんとにそんな風な事に日本がなるとしたら、隨分面白いと思ふがどうだらう。それほど骨のある運動に奴等がするかどうか。まあひとのする事だから、こちらは默つてみてゐよう。

◇日本がそんな風になつたとしたら、吾が社會運動の鬪士諸君、右傾だとか左傾とか云つて騒いでゐる社會運動家諸君、君等はどうするかれ。いやこんな事を聞く方が愚問だれ、未來のあるかないか解らない事を取つつかまいての云々だから。

◇とにかく吾が社會運動界には鍍士だとか何とかの人間が餘り多過ぎる。ろくな事も出來ないで、何時もゴタ／＼六でもない繩張り爭なんかばかりしてゐる。いつたい鍍士とか何とかの六でもない陰性動物は、表と裏との違つた資本主義社會の產物で、そして資本主義社會になくてはならぬものだが、社會主義社會の出現に努める社會運動内に、ブルジョア政黨者流のやるやうな六でもない陰生動物的の策動妄動はもつての外だ。そんな者ばかり蠢動させて置いては何時になつたつてろくな運動にはならない。かゝる陰生的動物を社會運動からフツ飛ばせ／＼。（野守）

一肌拔ぐの記

◇福田狂二氏の仕事を助けることがいい事と思ふから、永い間のいやな關係を水に流して久しぶりで「進め」社のために一肌拔ぐ。

◇石川準十郎君に頼まれてはどうにもいやだといひかねて編輯にまで僕は手を伸す。即ち石川君は服越に去つて專心マルクスの學に沒頭すると聞き、編輯の如き小事に彼の時間を空費せしめてはならぬと思ひ、浪々の僕、彼に代つて此の事に從ふべきを快諾した。

◇浪々とはいへ、僕には「解放」の仕事あり、山崎先生老後の爲めに微力を致さんと心に期してゐる故に、進めには、或は其の微力の其の又微力を要すに過ぎぬことを同人諸君に斷つておく。

◇雜誌はその名の如くやつぱり雜誌である。寢ころんで讀むべき代物である。進めも今少し興味中心の雜文味を加味してもよからんかと考ふ。同人諸君之を如何。（岡陽之助）

無題記

今日は紀元節だ、乞食が通る、自轉車が走る、馬方が通る、荷物自働車が走る

進め

布施辰治
福田狂二
石川準十郎
山川亮
岡陽之助
鈴木厚
渡邊理治
渡部信義
湯原彦三
松山政雄
岡本一郎
山本辰興
奥野直義
山根積
佐藤光敏

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

眠不足の小僧と小僧の自轉車が横町の角で突き當り、一方の自轉車が末來派の畫の樣に曲り、幾臺も〳〵ナッパ服、鈴成りの滿員電車が續き、土方がその窓から顏を出して手鼻をかむと朝が過ぎ。

日當の好い角の燒け跡の廣場の人だかりの中で、支那の手品師が鎗を空になげ鼻から蛇を入れて口から出しオポッカ、ナイ日本語で人を笑はせ、八十七錢ばかり貰つて、御世辭を云つて居る。

そこを少し隔てた燒材木の下で夫婦の乞喰が風を喰つてゐる、向ふの木レンガの大通を、着飾つた女が自働車をカッ飛ばし、それを追かける樣に二人ビキの人力車が五六臺、金モールを乘せて靖國神社の方にフットンで行つた。その後を刑事三四人家に飛び込んで來たと思つたら「二月號進め」發賣禁止と來やがつた。

これで十五年度の紀元節も暮れてしまつた。年々歲々年新たにして、吾等に對する迫害と紀元節とは同じ樣にやつて來る。（忍）

× × ×

現議會制度の斷末魔!! 外と、民衆に惡法の堅高さ、勞働組合法案を外壁に十重二十重のサーベルを林立せしめ、支配階級は滿場一致をもつてそれを通過せしめつゝある。

知らず彼等は、自からの爪に依つて自からの墓穴を掘るを。

× × ×

樂しきは同人會議の夜かな。

三々五々集い來る同人諸兄、忽ち滿員の編輯室、福田氏が中央、大火鉢の前で關羽髯をしごき、温顏なる山川兄が、笑みをもつて一同を見渡す頃は既に、血多く熱盟なる、春田、近藤、鈴木、秋山、橋野、渡邊信、加藤、松山の諸兄は、石川兄を中心に一時、時論の花を咲かせる。

その熱れる頰、燿ける眼。

世は沓き反動の渦巻く中にも、この友を持てる吾等は又幸ひなるかなである。（渡理）

同人

服部芳藏
王之言
安達謙吉
高橋琴藏
北島猛二
松里茂
加藤利藏
服部道夫
北山平次
秋山誓
近藤勇二
大橋虎雄
白石重雄
倉本晃南

大綜小綜

× × × ×

盟友石川準十郞、都門の紅塵を避けて遠く腰越にあつて、風雲の動くを覩じ、更らに論客岡陽之助を迎へて、吾進め社の意氣頓に揚がる。社内の中堅渡邊理治は、東京進め社を背負つて、大阪進め社と共に寧日なき奮鬪振りを示し、更らに福田狂二は關羽髯を引しごき、堂々たる六尺の巨軀を提げて、關の東西を一睥ぎに社員を督勵してゐる。

× × × ×

吾國無產階級の戰陣、益々多事多端ならんとするの秋、吾等が無產階級の爲めに盡すべき責務の、實に重大なるを思へば益々結束を堅くし、階級戰の一兵士として鬪はんことを念ず。幸に多くの盟友あつて、余を鞭撻しくるゝを思へば、愚鈍の才なりと雖も、辛ふじて驥尾に附するを得んか。

× × × ×

進め第四週年を迎へて××の其日まで誓つて平素の志を捨てざるを約す。浪々たりと雖も、自ら顧みて正しくんば、千萬人の中なりとも行かん、叛逆兒の意氣は正にかくあらねばならぬ。（山川）

云ひたい事

僕は、讀者諸君にも御承知かどうかは知らないが、滿更、進めと關係のない者じやない。一昨年の秋、岡さんと共に、ある事情で社を引いた。それまで、三四月といふものは同じ釜の飯を食つて來ただもんだから、社の内容、空氣なんかチヤンと吞みこんではゐる。同人諸君もまるツきり知らないものは少い。仕事は何をするにしても、經驗のある僕は、神が大變に出會つたように、たまげたり、ドヂを踏んだりすることなんか、まあないと考へるがどうなるかわからない。

でなくといつても、同人及び讀者諸君の叱正を仰がねばならない。土臺、社會運動といふものは、事新らしく、マルクスの名目を引ッ張り出さなくとも、孤立で行けぬといふことは、誰でも酢ッぱい程知つてゐる。

といつて、いくら團結が必要だと云つても、芋の子の寄合では、何にもならない。が、そんな者は、進め社を圍繞する諸君のなかには全然ない。

社を守る人には、鬼を酢に漬けてでも喰うと云ふ、皆シッカリ者ばかりで心配はいらぬ。何しろ、資本主義の跳梁を極めた帝都の最只中に立つて、向を張らうといふんだから、なまぢつかぢややつて行けぬ。

何はともあれ、紙數がないので、讀者諸君の鞭撻を乞ひ、御健鬪あらん事を祈る。（岡本一郎）

天馬行空

突忽として黑怪、步哨の喉を衝く。かれ、そも何者の措大ぞ。曰く勞働組合法案なり、その姉妹法、爭議調停法案之なり。

進め社同人一同は、よき敵を得て今年も獅子奮迅の出來るを喜ぶ。髀肉の嘆を洩らし勝ちな進め青年黨は、倍層の結束を得て、行くとして敵無きの槪を示す。

先づ何事を措いても、全體的戰鬪力を集中せしむべきは、怨敵ブルジョアジーであるは勿論なるも、小兒病的左傾陶醉團又の名を日本共產黨の狹量を根滅せしめんことを夢寐にも忘るべきに非ず。

第二大無產者黨今や陣痛の最中なり、共產黨系を除外したる健全なる無產政黨の誕生を聞く近からんか。（大橋）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

眞綿で首の組合法案

二月九日衆議院に提出された勞働組合法案を一瞥する時、われらは[illegible]
如何にフザケタ法案であるかを單刀直入に見極めよう、即ち

第十三條　勞働組合は組合員の脫退に關し不當なる條件を定むることを得ず。

（何が不當なる條件であるかは政府の勝手なる解釋に依るのであるから、組合の自由意志は減殺される）

第十四條　雇傭者が勞働者に對し勞働組合の組合員たるの故を以て爲したる解雇の意思表示は之を無效とす。

（一見いかにも勞働者の擁護を目的とするかの如きも、勞働者は解雇を申渡された日から直ぐにパンに窮せざるを得ない。法律上この種の解雇は無效であつても、勞働者にははてしなく永びき、莫大な費用を要する裁判を以て爭ふ如き餘裕はないのである。それができる位なら勞働者ではなくなる）

第十五條　勞働組合は理事其他の代理人が其職務を行ふに付き他人に生せしめたる損害を賠償する責に任ず。

（賠償に對する有責任の此の規定は衆議院の小委員會に於て賠償の要無きものと修正されたから茲に意見を述べない）

第十六條　行政官廳は勞働組合に對し其業務若しくは財產の狀況又は組合員の員數に關し報告を爲さしむることを得。

（財產團體でない勞働組合が例へば、爭議中などに此命令を受けた場合、爭議費用の出處をも明記せねばならぬ。かゝることは實に組合を、明かに敵として取扱ふ資本家の御都合第一の法文であるといはねばならぬ而も之が報告を怠り、又は虛僞の申告をした場合に具ふるために五十圓の罰則が設けられてゐる）

第十七條　勞働組合の會議の議決法令に違反し又は公益を害する時は行政官廳は之を取消すことを得。

（第十三條に於ての如く、組合の自由は異常に減殺され、政府の我儘なる解釋を許すことになる。殊に公益を害すると云ふ辭句は極めて莫然たる抽象句であつて、解釋次第では如何なることでも公益を害するといつて取消し得る。それが政府の常套手段だから）

第十八條　組合規約法令に違反し又は公益を害する時は行政官廳は其變更を命ずることを得。

（第十七條の批評參照）

第十九條　勞働組合の行爲安寧秩序を紊り公益を害するときは主務大臣は勞働組合の解散を命ずることを得。

（ブルジョアの常套語たる、秩序を紊り、公益を害するといふ句は何んな程度のものでも牽强附會できるものだ。解散の權利！　又何をか云はんやだ）

その他全體を通じて斯の如き實にフザケタ意思の下に作成されたものである。

我々が最も遺憾否心憎く思ふのは組合の團體交涉權の確立については一言も觸れず、又觸れ樣とせぬ政府の態度である。團體交涉權は勞働組合の主要なる職能である。これを除いて組合もヘチマもあつたものでない。

叙上の如く、支配階級によつて立案された組合法案は勞働組合をして骨抜きにし、其の進路を軟化せしめんとする懷柔策であり、又は解散の彈壓命を下さんとする組合破壞法案である。

即ち勞働階級の首を眞綿を以つて縛せんとする陋猾極はまる恐るべき生殺し法案である。

オツト早まつた！　ブルジョア政府のすることは何でもこの通りだつけ。今更ぐちは並べまいぞ。（**大橋生**）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

春閑啓蟄

—大衆的讀物について—

× × ×

チャンチャン、バラバラの國粋劇か劍俠劇か、將又ヤマトダマシヒなるものの舞踏か劍舞かは知らないが、殺氣横行すること今日の如く盛んなる事は、近頃餘り見ない現象である。木ノ本町に於ける自警團在鄕軍人の勇壯なる活躍、鶴見に於ける三谷秀親分と青山組親分との白兵戰、さては黒色聯盟の銀座街襲撃…等々と數え來ると、誠に世は元龜天正の戰國時代の小縮圖であり、國定村の忠治親分や逸見の貞藏、大前田の英五郎ドンが八洲のお役人を尻目にかけて、威を逞ふした時代を想倒する、誰か早く第二の介山や喬二となつて、新に講談に先鞭を着けるものはないか。

× × ×

大衆文藝の要求、而して必要は今日の急務である。而かも吾等が眞に歡迎し要求する大衆作家は、未だ一人もこの世に出てゐない。介山の『大菩薩峠』や雄は即ち雄なりと雖も、未だ川魚の雄たるのみ、大鯨の悠々として大海を横行するに較べては遙かに遠き感あらざるを得ない。誰か吾等無産階級の爲めに、眞に××的新講談、眞の大衆的讀物を書き下ろさないか。

× × ×

麗日漸やく地球を包んで、九十の春光に人間は醉ひ始めやうとしてゐる。花見だ酒だ、スベッテコロンデ喧嘩をして引張られて、醫者の厄介になつて、その藥代を拂ふのに婦の羽織を質に曲げた、と云ふ如き所謂我國の花見氣分。それと吾等プロ階級と何の交渉があるのだと思ふ勿れ、我國の無産階級には、まだかうした花見氣分が、毎年毎年花咲く頃になると、何處からかノサバリ出て來るのだ。失業の苦鳴は街路に滿ち、反動の魔人は白晝に横行する。春日永閑にして、南の椽に日向ぼつこしながら、何時までも睡眠をむさぼらんとする者は誰だッ。

× × ×

喰ふや喰はずの境界に追はれ通して、花が咲いたから花見酒だ、花見喧嘩だと騒ぐのは早くやめろ。その病が昂じて來ると自懸ては三十面四十面下げての自警團ゴッコとなり、××退治となり、揚句の果には××征伐×西伯利邊まで出征して、石鑵を啗らされながらも、夢中になつて『御國の爲めだ、かまはずに……』なんて、悲慘な歌になる。君達が不具者になつて、芽出度く凱旋する頃には、丸ノ内邊の大會社は增資增資の大景氣、ゼネラル何某どのは、シコタマ貯金が出來たつてネ。完く戰爭は有難いさ。これだからこそ、ミリタリズム商賣は止められない。

× × ×

戰爭萬歲、萬々歲、ついでに資本主義萬歲、萬々歲。誰かこの所をウマク新講談に書かないものかな。高柳式に『×××××萬圓の貯金法』つてな具合にね。

× × ×

昔、大井河の雲助朝臣は、クリカラ紋々のケツをたたいて、弱い旅人と見たら酒手を强請るのを、自分達の誇とりした。今は勞働組合法、爭議調停法等々の退治法で、金の無い力の無い無産階級を絞らうとする所の、雲助朝臣がゐる世の中だ。今の雲助はケツ毛をむしつて啖呵を切るかはりに、フロックか何かを一着して、自動車に納まつて天下國家を論じながら、後手でそつと算盤をハヂかうと云ふ輩だ。これで人心日に險ならず、民情頻りに變を思はなかつたらそれこそ「マのヌのケの一國の住民だ。三谷秀の白晝飛躍も、銀座街頭の棒振りダンスも、共に共にその因つて來る所、深きを想へ。春日永閑、春日永閑、四海浪躍るを知らで日永かな。

× × ×

さるにても所謂プロレタリア文士の長閑さかな。プロ、カルトの必要今日より急務なるはなく、所謂宣傳文藝の力作に對する翹望今日より差迫つてゐる時代はない。然るに、プロ派文士諸公の太平に鼓腹する光景よ。噫事實をして事實を擊たしめよ。僕は深く前田河、中西、葉山等の諸氏に期待する。誰か日本のジャングルやプラス・チェックを發表するか？（レフ）

進め・講座

社會主義講話（二）

石川準十郎

前號に於ける本講話（一は）小活字にて二字下げて組み入らるべき筈の註釋文が本文末に訂正せるが如く、六ケ所共に全く本文に組み入れられた爲に、（誤字乃至脫字が多かつた上に）、ひどく混亂したものとなつた事は、筆者の甚だ遺憾とする所である。いづれ完結後パンフレットとして上梓する際に訂正して遺憾なきを期する積りである。本講話は前後通じて四回を以て（もう二回で）完結する順序になつて居り、その組立は大體左の如くである。

（一）社會主義に對する誤解（前號所載）
（二）社會主義の期する社會の仕組（本號所載）
（三）社會主義の期する社會の仕組の理由（來月號所載）
（四）社會主義に對する不當な論難（來々月號所載）

（二）社會主義の期する社會の仕組

社會主義は以上の如きものでないとするならば、然らば如何なるものであるか。

前にも言へるが如く、社會主義とは、先づ一言にしてこれを言ふならば、今の社會の經濟的仕組を改へることに依つて、この世の中より貧乏を無くし、以つて社會の大多數を占る所謂無産階級の生活を解放せんとするものである。が然らば、社會主義はその今の社會の經濟的仕組を如何に改へようとするのであるか。換言すれば、社會主義は一體今の世の中をどうしようと言ふのであるか。

(1) 生産機關の公有

第一に社會主義の期する點は生産機關の公有である。

この「公有」は「國有」又は「共有」と言ふも同じことであつて、要するに社會全體乃至國民全體の共同所有とすることである。生産機關は嚴密に言へば勞働要具（生産勞働を爲すに當つて使用する要具）と勞働對象（生産勞働を爲すに當つて勞働を仕向ける對象）とより成り、物を生産するに必要とされるあらゆるものはこの二つの中のいづれかに入ることとなる。

即ち、土地、工場、原料、機械等要するに物を生産するに必要な物を、社會全體乃至國民全體の共同所有とし、社會全體乃至國民全體の代表機關としての國家乃至公共團體の手に其所有權を集めるのである。換言すれば、國有乃至共有するのである。

此處で問題となるのは所謂「國家」に就ての議論即ち國家論であるが、此處には暫らくこれを避ける。社會主義殊にマルキシズム上に於ける國家論は由來その難點とされる所であつて、尙十分討究の餘地を有する所のものである。

人々の知るが如く、今の世の中即ち生産機關私有制度の世の中である。生産機關の所有權は、随つてその運用權も享益權も、全く個人若しくは個人的團體の手に在る世の中である。社會主義はそれを公有の世の中にしようとするのである。だからして社會主義は今の世の中とは正に正反對な經濟的仕組（但し生産機關の關する限りに於て）を志して居るのである。

社會主義は何が故に乃至如何なる根據の下に、斯の如き經濟的仕組の改造を志すのであるか、それは後に說明せんとする所である。此處には只要するに斯くの如く社會主義は、先づ生産機關の所有の點に於て正に正反對な方法を志して居るものであることを知つて置けば宜い。

尤も今の世の中に於ても、多少其意味は異るが、生産機關の乃至更に廣い意味に於ての財産の公有制度が或る一部分に於て行はれて居る。例へば我國に於ては、鐵道、郵便、電信、電話等の生産機關は既に國有となつて居り、道路、公園、學校等の社會的財産の大部分は國有若しくは府縣市町村等の共同團體の公有となつて居る。而して社會主義はこの公有制度を擴大さして、生産機關の全部若しくは大部分を主として國有にしようとするのである。

(2) 生産の公營

第二に社會主義の期する點は生産の公營である。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

生產機關の公有は必ずしも生產の公營を意味して居ない。生產機關は公有にしても、その生產は個人若しくは個人的團體(例へば會社)の手に委任することが出來る。例へば今日に於けるロシヤがそれである。

即ち、今個人若しくは個人的團體の手に壟斷されて居る所の生產を社會全體若しくは國民全體の代表機關としての公共團體殊に國家の手に取り上げて、國家自らをしてその任に當らしめようとするのである。換言すれば、今日無秩序的に行はれて居る所の生產を有秩序的に行はうとするのである。而してこの事は——後に分る所であるが——非常に重大な意味を有するものである。然し此處には只要するに、斯の如く社會主義は生產の經營の點に於ても今の世の中とは正に正反對の方法を志して居るものであること、即ち正に正反對な經濟的仕組を志して居るものであることを知つて置けば宜い。

多少その意味は異るが、我國に於て今日既に國營となつて居るものに、先に擧げた所の、鐵道、郵便、電信、電話等があり尚多少異るが鹽、煙草等がある。而して社會主義はこの公營制度を擴大して、生產の全部若しくは大部分を主として國營にしようとするのである。

(3) 分配の公制

第三に社會主義の期する點は分配の公制である。

此處に分配の公制と云ふのは、消費資料としての社會的收入の分配國家若しくは公共團體の手に依つて規制し調節することを意味する。

即ち、今日不當な自由競爭乃至自由契約の下に個人若しくは個人的團體を通して不公平不統一的に行はれて居る所の分配を國家若しくは公共團體の手に依つて公平に統一的に分配しようとするのである、即ち社會主義はその分配に於ても今の世の中とは正に正反對な方法を志して居るのである。

およそ社會的生產の結果に依る社會的收入には、生產機關としての收入と消費資料としての收入の二種が有り得る。而して社會主義の社會に於ても、消費資料としての社會的收入は何等かの方法に於て分配されればならないことは、言ふ迄もないことである。

然らば社會主義は、國家若しくは公共團體の手に依つて、如何なる方法に依つて、消費資料としてのその社會的收入を公平に且統一的に分配しようとするのであるか。これについてはその有力なものとして從來大體三通りの方法が唱へられて居る。第一は勞働能率に應じて分配せんとする說であり、第二は全然平等に分配せんとする說であり第三には必要に應じて分配せんとする說である。そのいづれが最も公平なる分配方法であるかは暫らく別問題である。此處には只要するに斯の如く社會主義は、分配の公制を、即ち今の世の中とは正に正反對な經濟的仕組を、志して居るものであることを知つて置けば宜い。

以上之を要するに、社會主義は今の社會の經濟的仕組をば根本的に改へて、(一)生產機關を公有にし、(二)生產を公營にし(三)分配を公制にしようとするものである。換言すれば、集中的經濟方法即ち經濟組織の集中的運用方法を期するものである。然らばそも〳〵社會主義は何が故に斯の如き集中的經濟方法を期するのであるか。而してこれを理解せんがためには、我々は先づ何が故に今日の世の中に貧乏が存在するか、何が故に社會は斯の如き集中的な經濟的仕組を必要とするか——次に我々はこれを知らうとするものである。

社會主義は又專門學術的に集產主義と呼ばれる。集產主義とは社會主義乃至共產主義の學術語に他ならなく、その本來の用法は集中的經濟方法を意味するに在る。

前號訂正。前號第二十五頁第一段最後の行の『經濟とは、物を作つたり運んだり(生產)……』から同第二段第十二行目乃至十四行目の『……生產するに必要な物を言ふ。』まで同頁第五段第二行目の『有產階級とは社會的生產機關を……』から第七行目乃至第九行目の『……剩餘價値に就ては後に詳しく說明す』まで。第二十六頁第一段最後から二行目の『支配階級とは、ブルジョア……』から同第二段四行目の『……ブルジョアの世の中である。』まで。同三段最後の行の『今のブルジョアの世の中……』から同第四段第三行目乃至第四行目の『……あるかに就ては、追つて說明する所である。』まで。同第五段第十三行目の『社會の富(財產)は、大體これを……』から第二十七頁第一段第四行目乃至五行目の『……後に詳しく說明する所である。』まで。同第四段第九行目の『今日一般經濟學上に於ては……』から同文最後の『……無政府主義のみが採用する所のものである。』まで。以上皆註文であつて、小活字にて本文より二字下げて組み入れられべきものであつた。其他の誤字脫字の訂正は略す。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

桑田次郎氏編述

電車ストライキ

改訂增補版　約八百頁　定價貳圓　送料二十錢

本書は昨年大阪に於ける大阪市電**ストライキ**を中心として、其他最近京阪地方に勃發したる交通勞働に關する爭議及び罷業の明細なる眞相及顚末の記錄書である。內容は前後二編と分ち、前編には一々其の爭議の詳細なる顚末をのべ、後編は主張批判感想編として、組合代表者、社會運動家、社會主義學者、五十餘氏の痛烈なる批判、感想の檄文が連ねてある。最近日本に於ける交通勞働の內容と其の狀勢を知らんとする者は、讀め而して彼の**ストライキ**破りとして問題とされた學生の反動運動の眞相等、涙と共に敗戰の憂目を忍んだ血に塗れたる階級戰の其の事實を知らんとする者は讀め！（進め社に於ても取次販賣します）

發行所　東京市京橋區銀座弓町一番地　クラルテ社

農民新聞

定價五錢
一年六拾錢

鳥取縣大山驛前
山陰農民組合本部

農民運動の急先鋒

小作人

一部五錢
一年五十錢

大阪市東淀川區
十三南町六四二
小作人社

金銀
白金
東京市神田區松田町
德力本店

消化と
兩博士方劑
仁丹
懷中良藥
毒けし

優等　清酒
さはのつる

梅田又次郎主筆

時代と民衆

一部三十錢
一年三圓

鳥取縣米子町
時代と民衆社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

爽快
絶佳

エビスビール
サッポロビール

大日本麥酒株式會社

婦人良薬 喜谷實母散

產前、產後、血の道、
引風、引込等に
特効あり

◇全國到る處に販賣す

東京市京橋區中橋大鋸町

本舗 喜谷市郎衛門

電話京橋 一五五五番 一五五六番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可 毎月一回一日發行 定價一部十錢（稅五厘）半年六十錢一年一圓（稅共六）發行所 東京市神田區猿樂町二ノ一（振替東京六九八五三）進め社本部

お買物は三越
◆三越には日常生活の御必要品は大低御座います
◆良い品は東京に限りますが東京でも三越の品ならば御安心であります
品は良く、價は廉く、品數は豊富
三越呉服店
◇東京駿河町◇